

令和元年度

教育に関する事務の管理及び執行状況
の点検・評価に関する報告書
(平成30年度対象)

令和元年11月

帯広市教育委員会

目 次

1	点検及び評価の基本的な考え方	1
	(1) 趣旨	1
	(2) 対象	1
	(3) 方法	1
	(4) 学識経験者の知見の活用	1
2	点検及び評価の結果	3
	(1) 次代を担う人づくり	3
	(2) とともに学びきずなを育む地域づくり	11
	(3) 基本目標を実現するための基盤づくり	15
3	教育に関する学識経験者の意見	25
	参考資料	27
	資料1 平成30年度教育委員会の活動状況	28
	資料2 平成30年度教育行政執行方針	32
	資料3 平成30年度予算決算	34
	資料4 平成30年度における主な取り組み一覧	36
	資料5 成果指標の推移	43
	資料6 課題及び今後の方向性に対する平成30年度の取り組み	48

1 点検及び評価の基本的な考え方

(1) 趣旨

効果的な教育行政の推進をはかるとともに、市民への説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育の取り組みについて点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、あわせて市民に公表するものです。

(2) 対象

「帯広市教育基本計画」の体系に従い、平成30年度に実施した取り組みを対象として、点検及び評価を実施しました。

なお、「帯広市教育基本計画」においては、福祉や子育てなど他の分野と幅広く協力しながら取り組みをすすめることとしていることから、教育委員会の取り組みに加え、関係部課等の取り組みについても、点検及び評価の対象としています。

(3) 方法

点検及び評価は、第六期帯広市総合計画の政策・施策評価と整合をはかりつつ、「帯広市教育基本計画」の「個別目標」及び「基本方向」ごとに行いました。具体的には、成果指標の達成状況や平成30年度における主な取り組み内容などを踏まえながら、平成30年度における取り組みの成果と、課題及び今後の方向性の2つの観点から、点検及び評価を行いました。

(4) 学識経験者の知見の活用

学識経験者から点検及び評価に関する意見や助言をいただき、教育委員会が点検及び評価を行うに当たって客観性を確保するとともに、今後の取り組みに活用していきます。

参考1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)	
第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。	
2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。	

図1 帯広市教育基本計画体系図

基本目標	個別目標	展開方策
1 次代を担う人づくり	1-1 知識・技能の習得	(1) 子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進 (2) 個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進 (3) 職業に関する教育・学習活動の推進 (4) 高度情報化に対応した教育・学習活動の推進
	1-2 豊かな心の育成	(1) 子どもの社会性の育成 (2) 豊かな情操の育成と生きがいづくり
	1-3 健やかな体づくり	(1) 健やかな体を育むスポーツ活動等の推進 (2) 食育の推進と学校給食の充実
	1-4 人間を尊重し自然と共生する人づくり	(1) 人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進 (2) グローバル化に対応した教育・学習活動の推進 (3) 環境に関する教育・学習活動の推進
2 とともに学びきずなを育む地域づくり	2-1 ふるさとの理解の促進	(1) 子どものふるさと教育の推進 (2) 地域に関する学習活動の推進
	2-2 きずなづくり・まちづくり	(1) まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進 (2) にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興

	基本方向	展開方策
基本目標を実現するための基盤づくり	1 学校・家庭・地域の連携	(1) 開かれた学校づくり (2) 家庭教育への支援 (3) 家庭や地域による教育支援の推進
	2 教育を支える人材の育成	(1) 教員の人間力・指導力の向上 (2) 地域の人材の発掘・育成・活用
	3 教育環境の充実	(1) 学校教育の環境整備 (2) 社会教育の環境整備 (3) 保育・体験活動の環境整備
	4 教育機会の確保	(1) 就学・進学への支援 (2) 健やかな発達への支援
	5 よりよい教育のためのしくみづくり	(1) 魅力ある学校づくりの推進 (2) 学校教育のしくみの工夫改善 (3) 社会教育施設の利用の促進 (4) 地域の実情に応じた教育行政の推進

2 点検及び評価の結果

(1) 次代を担う人づくり

個別目標1-1	知識・技能の習得
市民が生涯にわたり自己を高めるとともに、時代の変化に適應し、自立して生きることができるよう、必要な知識・技能を習得することができる教育・学習活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項目	内容
取組みの成果	<p>(1) 「子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進」については、標準学力検査等で課題を明確にし、授業改善資料として紀要「帯広の子どもの学力」を活用した^{（別添）}研修を行いました。</p> <p>(2) 「個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進」については、コミュニティ講座や高齢者学級において、周知方法の見直しを行ったことにより、講座等の参加者数は前年度より1,572人増加し、目標値を上回りました。</p> <p>(3) 「職業に関する教育・学習活動の推進」については、小中学校において、将来を見据えたキャリア教育の充実をすすめています。帯広南商業高等学校では、模擬面接などの進路指導、挨拶運動などの生活指導や即戦力となる人材育成に努め、企業との緊密な連携を継続してすすめてきた結果、就職率100%を達成しています。</p> <p>(4) 「高度情報化に対応した教育・学習活動の推進」については、小中学校がクラウド型サーバーシステムを活用しやすいよう、教育効果の高い教材を提供しました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1) 「子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進」については、標準学力検査の目標基準到達観点数が前年度と比較すると小学第3学年の自然現象についての知識・理解の1観点が基準値を下回りました。確かな基礎学力の定着をはかるため、個々の実態に応じた学習指導、より実効性のある教材や資料の提供等による授業改善、教職員への学力向上研修講座の開催のほか、学校、家庭、地域が一体となり、学習習慣や生活習慣の改善をすすめます。</p> <p>(2) 「個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進」については、講座内容の見直しや新規講座の実施のほか、広範な情報発信を行い、新規受講者の確保に取り組みます。</p> <p>(3) 「職業に関する教育・学習活動の推進」については、小中学校において、キャリア教育の充実をはかるよう、引き続き、指導・助言していきます。また、帯広南商業高等学校では、検定の3種目以上1級取得率が目標値を下回りました。引き続き、講習や補習を実施していくほか、検定合格者の状況を掲示し、資格取得への高い意識付けをはかるよう取り組みます。</p> <p>(4) 「高度情報化に対応した教育・学習活動の推進」については、関係機関と連携しSNSの正しい使用やインターネットの安全利用に関する啓発活動に取り組みます。</p>

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19基準値	H30実績値	H31目標値
		H30目標値	
標準学力検査の目標基準到達観点数（観点）	26	40	42
		41	
帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数（人）	22,590	40,004	23,000
		23,000	
帯広南商業高等学校の就職率（%）	100.0	100.0	100.0
		100.0	
帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率（%）	46.7	67.5	75.0
		71.5	

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 生涯学習推進委員会

生涯学習推進委員会は、帯広市内全26小学校区ごとに委員会を持ち、「コミュニティ講座」を通して学習・交流機会を提供しています。

平成30年度は249講座を開催し、計25,364名の参加がありました。『地域から発想する生涯学習』を合言葉に、ふれあいのある住みよい地域社会づくりを目指しています。



夏まつりの様子

◆ 帯広南商業高等学校でのキャリア教育

3年生に対しては、5月に面接の基本指導、8月に卒業生から助言を得る先輩訪問、9月に模擬面接指導を行い、就職試験の解禁に備え準備を行っています。

2年生は、平成30年度66職場でインターンシップを行い、キャリア形成に役立てています。それに先がけ、教員は市内の企業と調整を重ねて準備をすすめるほか、外部講師によるマナー講演会を開き、インターンシップ当日に備えています。

1年生については、本校の卒業生から就労・就学体験を聞く「先輩訪問」や外部講師によるビジネス基礎講座を実施し、進路実現への意欲を高めるとともに、今何をすべきか、を考える機会としています。

日頃から、教員は企業や職業に対する生徒の興味関心が高まるよう指導しています。



面接の基本指導の様子



インターンシップマナー講演会の様子

個別目標1-2	豊かな心の育成
子どもたちが、他の人々と協調しながら、自らを律し、社会においてよりよく生きる力を身につけるとともに、市民が生涯にわたりゆとりやうるおいを実感して生活することができるよう、豊かな心の育成に取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項目	内容
取組みの成果	<p>(1)「子どもの社会性の育成」については、小中学校にこころの教室相談員やスクールソーシャルワーカー、帯広南商業高等学校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒の悩み等へのきめ細かい相談体制に努めました。また、いじめや非行の未然防止と早期解決のため、関係機関と連携をはかり、各種教員研修や「帯広市小中学生いじめ・非行防止サミット」等を開催したほか、「帯広市児童生徒のいじめ・非行防止5つの誓い」のクリアファイルを配布し、児童生徒の意識啓発を行いました。また、中学校の「特別の教科 道徳」の教育課程編成の手引きを作成したほか、指導訪問などで指導・助言を行い、小中学校ともに道徳の授業改善をすすめました。</p> <p>(2)「豊かな情操の育成と生きがいづくり」については、小中学校において学校図書ボランティア等が行っている、読み聞かせや朝読書などの取り組みにより、学校図書館の児童生徒1人当たり貸出冊数は、小中学校ともに目標値を上回りました。また、市民芸術祭や市民パレエ公演など、市民主体の芸術・文化活動の支援のほか、各文化施設における良質な芸術・文化に触れる鑑賞機会の提供など、身近に芸術・文化に親しめる環境づくりに取り組みました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)「子どもの社会性の育成」については、家庭や児童生徒の心の内面の複雑化、原因の多様化により、小中学校の不登校児童生徒が学校復帰まで至らないケースが多かったことから、不登校生徒の復帰率は目標値を下回りました。引き続き、教育相談員の専門性の向上をはかるための研修、個々に応じた教育相談体制や保護者への相談体制の充実にも努めるとともに、より有効に教育相談員の活用をはかるため、配置日数の調整等の工夫をすすめます。道徳については、小中学校で指定教科書による授業が始まったことから、新学習指導要領の完全実施へ向けて、指導訪問などを通じて授業や指導方法について指導・助言を行います。子どもの居場所づくり事業は、運営の大部分を担うボランティアスタッフやコーディネーターの不足により、実施回数を増やすことができず、また、9月に発生した大規模停電により中止となった日があったことなどにより、参加児童数は目標値を下回りました。引き続き、活動内容の効果的な周知に努めるとともに、学校、地域やボランティア団体の連携体制を強化し、魅力ある企画講座の実施やスムーズな事業運営に取り組みます。</p> <p>(2)「豊かな情操の育成と生きがいづくり」については、小中学校の学校図書館において、魅力ある蔵書整備はもとより、運営に係る担い手の確保や専門性の向上をはかるなど、より活用しやすい学校図書館づくりに努めます。鑑賞事業の入場者数は、7年連続で増加しているものの、目標値を下回りました。市民協働による鑑賞機会の提供に向けた仕組みづくりを検討し、芸術・文化に関する情報発信に努めます。</p>

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H30 実績値	H31 目標値
		H30 目標値	
不登校生徒の復帰率 (%)	30.8	29.4 62.5	65.0
子どもの居場所づくり参加児童数 (人)	7,575	22,017 30,500	31,100
小学校図書館の児童1人当たり貸出冊数 (冊)	9.1	16.8 11.5	11.8
中学校図書館の生徒1人当たり貸出冊数 (冊)	1.6	4.3 2.3	2.4
鑑賞事業の入場者数 (人)	34,098	34,800 38,000	38,000

※貸出冊数は年間の冊数

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 子どもの居場所づくり事業

全小学校において、放課後や週休日等に特別教室・体育館などを利用して、工作や軽運動、料理教室等の体験活動や自由遊びを行っています。

地域の大人やNPO法人などのボランティアスタッフが企画運営を行い、平成30年度は687回実施し、異年齢・異世代の人との交流・集団活動を通じ、児童は人付き合いや社会のルールを学び、コミュニケーション能力を育てています。

また、同事業に参加するボランティアスタッフや市民に対し、子どもの接し方や指導技術の向上をはかるとともに、新規人材確保のため、年1回ボランティア養成講座を開催しています。



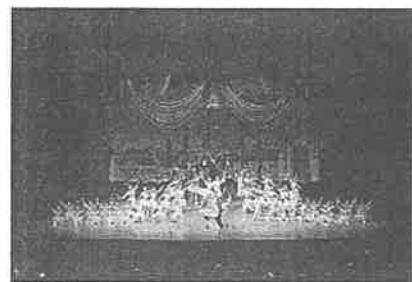
放課後子ども広場の様子
(カーネーションづくり)

◆ 市民バレエ公演

文化団体等が行う自主的な活動を支援し、市民の主体的な文化芸術活動を促進する取り組みを行っています。

平成30年度は、バレエダンサー、オーケストラのほか、企画、運営、公演に、多くの文化団体・市民が参画し、第4回帯広市民バレエ公演「 Coppélia 」が開催されました。

多くの市民によって創り上げられた公演を、1,240人の方に鑑賞いただきました。



市民バレエ公演「 Coppélia 」

個別目標1-3	健やかな体づくり
市民が生涯にわたり心身ともに健やかな生活を送ることができるよう、健やかな体づくりに取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項目	内 容
取組みの成果	<p>(1)「健やかな体を育むスポーツ活動等の推進」については、明治北海道十勝オーバルでのスピードスケート大会、フードバレーとかちマラソン大会などの各種大会やスポーツ教室を開催するなど、スポーツに触れ、楽しむことができる機会の提供に取り組んだほか、指定管理者と連携し、講習会などの内容の充実に努めた結果、スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数は目標値を上回りました。児童のむし歯予防を目的とした学校におけるフッ化物洗口の取り組みについては、帯広小学校と豊成小学校で実施し、また、その効果や安全性について講演会などを開催し周知するなど、児童の歯・口腔の健康づくりの推進に努めました。</p> <p>(2)「食育の推進と学校給食の充実」については、小中学校において食に関する教育指導計画、食育推進委員会による啓発資料「帯広らしい食育プログラム」及び「食育レシピ集」を作成しているほか、食育講演会や食育指導専門員による食育出前授業、市内全小中学校で給食指導を実施するなど、食に関する知識と食を選択する力の習得に向け、生涯にわたって健全な心身を培うための基礎となる食育を推進しました。学校給食においては、関係部署、地元の農協や生産者との連携により、年間を通して安定的に使用できる地場産冷凍野菜や野菜貯蔵庫を所有している地元生産者などから、冷凍人参、玉葱、キャベツ、レタス等を購入し、地場産野菜の導入に努めました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)「健やかな体を育むスポーツ活動等の推進」については、総合型地域スポーツクラブ設置数は、新たなクラブ設立にむけた動きはあるものの、設立までには至っておらず、目標値を下回りました。今後も、より多くの市民がスポーツに親しみ、楽しむことのできる機会づくりに努めます。フッ化物洗口の取り組みについては、実施校の拡大に向けて、引き続き、効果と安全性について児童や保護者、学校に周知していくとともに、効率的な実施方法や体制を検討します。</p> <p>(2)「食育の推進と学校給食の充実」については、栄養教諭と食育指導専門員の連携を強化し、互いの授業改善に努めるとともに、啓発資料を活用しながら、児童生徒への食に関する指導の一層の充実をはかります。学校給食における地場産野菜の導入率は、地元の農協や地元生産者からの直接購入などにより、前年に比べ6.2%増加したものの、端境期に調達可能な生産物の確保ができなかったことから、目標値を下回りました。引き続き、地元生産者と協議を進め、地場産野菜の導入に向けて、収穫期に一定量の生産物の確保と端境期の使用量・品目拡大に取り組みます。また、給食費については、食材価格の高騰や給食提供日数の増加により、必要な食材の調達に支障をきたすことから、給食費単価の改定を行います。</p>

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H30 実績値	H31 目標値
		H30 目標値	
スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数（人）	35,677	99,330 87,000	87,000
総合型地域スポーツクラブの設置数（か所）	2	4 7	8
学校給食における地場産野菜の導入率（％）	55.7	63.5 69.6	70.0

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ スポーツ教室・講習会の開催

ほっとドリームプロジェクトは、長野オリンピック金メダリストの清水宏保氏がリーダーとなり、スピードスケート競技を振興する事業です。

競技者を対象としたスケートキングダムをはじめ、初心者や幼児を対象とした各種教室、また、保護者や指導者及び教員を対象とした講習会を行っています。

中高生スケーターと指導者を対象に実施した教室では、オリンピックによる「走る」をテーマとした陸上トレーニングの実技指導を行い、スピードスケートを他の競技の視点から見つめ直す機会や新しい発見に繋がる講習会となりました。



実技指導の様子

◆ 地産地消に取り組む学校給食

学校給食では、地元の農協や生産者からの地場産野菜導入を継続して行うとともに、「ふるさと給食」において、地元産食材を提供している生産者と児童生徒が交流を通して、地産地消の意味を理解し、食育の推進に努めました。

○生産者との交流回数 平成30年度 3回実施



生産者の学校訪問の様子

個別目標1-4	人間を尊重し自然と共生する人づくり
<p>誰もが人間として尊重され、共生することができる社会づくりや、人と自然が共生する持続可能な社会づくりに資するため、市民が必要な知識などを習得することができる教育・学習活動をすすめます。</p>	

○ 点検及び評価の結果

項目	内容
取組みの成果	<p>(1)「人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進」については、帯広畜産大学や帯広南商業高等学校での講座開催のほか、大正ふれあいまつりにおける周知啓発など、庁内外と連携しユニバーサルデザイン（UD）に関する講座等の開催機会の拡大に努めたことにより、目標値を上回りました。また、デートDV 予防講座をはじめとした講座、情報誌の発行など、男女平等の意識啓発を行いました。そのほか、障害のある人が日常生活で感じている社会的障壁の解消に向けた取り組みとして、援助や配慮を知らせるためのヘルプマークを配布し、障害者理解の促進に努めました。</p> <p>(2)「グローバル化に対応した教育・学習活動の推進」については、小学校外国語活動及び中学校外国語科の指導の充実をはかるため、外国語指導講師を全小中学校に派遣し、児童生徒の確かな学力向上に努めました。帯広南商業高等学校では、専任の英語指導助手の配置や姉妹都市への生徒派遣により、生きた英語に触れる機会を提供し、コミュニケーション能力の向上と国際理解を深めました。国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数は、在住外国人との各種交流事業を通じた国際理解を推進し、事業の魅力向上に努めたことなどから、目標値を上回りました。</p> <p>(3)「環境に関する教育・学習活動の推進」については、環境にやさしい活動実践校の取組促進に向けて、環境教育プログラム集の発行と配布を行いました。また、教員の環境教育への理解を深めるため、研修を実施したほか、学校と行政による意見交換会を実施し、環境教育の推進に努めました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)「人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進」のうち、ユニバーサルデザイン（UD）の意識啓発については、一定程度の成果が認められることから、事業のあり方について次期総合計画策定の中で検討します。また、男女共同参画については、性別による固定的な役割分担意識や社会慣行の解消のため、セミナーや講座を開催するなど、男女平等意識の浸透・定着をはかります。そのほか、差別に関する相談を通じて、紛争の防止や解決をはかるなど、様々な障害や障害のある人への理解の促進に取り組みます。</p> <p>(2)「グローバル化に対応した教育・学習活動の推進」については、新学習指導要領や小学校外国語活動の教科化などに対応した指導のあり方を考え、実践していくために、外国語指導講師の効果的な派遣体制や指導の充実について検討します。</p> <p>(3)「環境に関する教育・学習活動の推進」については、教員を対象とした研修を実施した際の意見等を参考に、出前環境教室の充実をはかるとともに、引き続き、環境教育プログラム集などにより情報を発信し、帯広らしい環境教育を推進します。</p>

○ 参考1：成果指標の状況

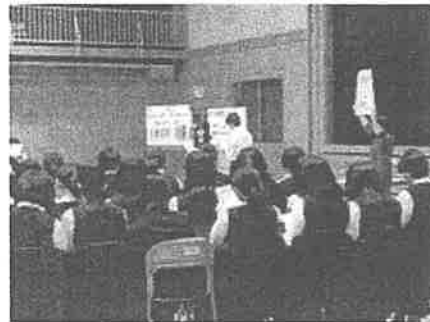
指 標 名	H19 基準値	H30 実績値	H31 目標値
		H30 目標値	
UDに関する講座等への参加者数（人）	234 (H17-19 平均)	391 284	370
国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数（人）	8,465 (H17-19 平均)	10,105 9,265	9,350
環境にやさしい活動実践校数（校）	10	41 41	41

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ デートDV 予防講座

男女共同参画教育のひとつとして、高校生を対象にデートDV（交際相手からの暴力）についてワークショップを行い、相手を尊重する関係を学び、DV 防止につながる予防講座を開催し、平成30年度は4校で1,032人が受講しました。

講座受講後のアンケートの回答では、「デートDVについて、しっかり理解できた」「被害者、加害者にならないようにしたい」などがあり、DV 防止へ向けた意識啓発になっています。



デートDV 予防講座の様子

◆ 帯広南商業高等学校でのグローバル教育

英語指導助手を配置し、生徒が生きた英語に触れることにより、英語学習能力の向上や外国の生活文化の促進につながっています。

インターネットを活用した英語学習システムにより、生徒個々のレベルに応じた効果的な学習ができ、検定試験の合格率の向上に寄与しています。

姉妹都市であるマディソン市へ生徒5人を派遣し、ホームステイ体験や現地高校生との交流を行うことにより、生きた英語や文化に直接触れ、専門性の高い国際理解教育につながっています。



マディソン市へのホームステイ体験の様子

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

個別目標2-1	ふるさとの理解の促進
<p>市民がふるさとの風土に学び、自己を確立するとともに、ふるさとの誇りや愛着などを高めることができるよう、ふるさとの理解や再発見を促進する教育・学習活動をすすめます。</p>	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	<p>(1) 「子どものふるさと教育の推進」については、主体的・対話的に学ぶ「帯広版アクティブ・ラーニング」に取り組み、家庭や地域の幅広い人々の参画・協力のもと、「郷土体験学習」、「自然体験学習」、「ふるさと学習農園」の体験活動を実施し、児童生徒のふるさとへの理解を推進しました。また、百年記念館では、身近な生きものについて理解を深め、環境を大切に作る心を育てるため、エゾリスやアカゲラの暮らしを紹介する出前講座を実施するなど、児童生徒がふるさとの自然について学ぶ機会を提供しました。</p> <p>(2) 「地域に関する学習活動の推進」については、地域に根ざした親しみやすいコミュニティ講座等を開催したことにより、地域について学ぶ講座等への参加者数は目標値を上回りました。また、百年記念館に設置しているアイヌ民族文化情報センター（リウカ）では、アイヌ文化に関する展示、出前講座や自然観察会の開催など、アイヌ文化に触れる機会の充実をはかりました。そのほか、アイヌの古式舞踊の保存・伝承団体の活動支援のほか、アイヌの伝統的生活空間（イオル）再生事業に取り組み、十勝地域のアイヌ文化の保存・継承、理解促進をはかりました。図書館では、郷土の歌人中城ふみ子の名を冠した全国公募短歌賞の実施や、読書週間事業の一つとして「よみがえる、昔の帯広」と題した、北海道立図書館職員の解説を添えた「ふるさとDVD『帯広』」の上映会を行い、郷土をより身近に感じていただく機会の提供に努めました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1) 「子どものふるさと教育の推進」については、小中学校で行っている体験活動等において、児童生徒の主体性を促すよう、プログラムの見直しや学校独自の取り組みを多くするなどの検討をすすめます。また、百年記念館では、出前講座の教材の更新や新たなプログラムづくりに取り組みます。</p> <p>(2) 「地域に関する学習活動の推進」については、継続して市民大学講座、百年記念館博物館講座や図書館郷土資料展示などを行い、地域の文化や歴史を学び、理解を深める機会を提供するほか、多くの市民が興味・関心をもつよう、効果的な周知方法を検討します。また、アイヌ民族の文化や歴史を学習する機会の充実をはかるため、リウカの利用や出前講座の周知を積極的に行うほか、アイヌの伝統文化の保存・普及をはかるため、引き続き、アイヌの古式舞踊の保存・伝承団体への支援、イオル再生事業に取り組みます。</p>

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19基準値	H30実績値	H31目標値
		H30目標値	
地域について学ぶ講座等への参加者数（人）	4,053	6,428	4,000
		4,000	

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 郷土体験学習

ふるさと帯広市の環境・自然・農業等に直接触れ、体験的に学ぶ教育プログラムを充実させることにより、郷土と自然を愛する、心豊かな児童の育成をはかることを目的に、小学校4年生では郷土体験学習を実施しています。

主な行き先は、帯広市野草園、帯広の森はぐくむ、くりりんセンター等です。

児童は、帯広市の豊かな自然を体験したり、帯広市ならではの施設を見学したりすることを通して、ふるさとの素晴らしさを全身で味わいました。



くりりんセンター見学の様子

◆ 中城ふみ子賞の実施

郷土の歌人中城ふみ子の功績を讃え、没後50年となる平成16年に、「中城ふみ子賞」を創設しました。

中城ふみ子は、31年の生涯の中で帯広の短歌会を活動基盤として数々の歌を詠み、戦後の現代短歌潮流の礎となりました、ふるさと帯広を代表する歌人です。

この賞は隔年で実施しており、第8回となる平成30年度は、全国や海外の幅広い年代から、短歌50首を1編として110編の応募がありました。

市民と協働で立ち上げた実行委員会により運営しており、選者による作品選考を行った後、命日となる8月3日に表彰式を行いました。



第8回中城ふみ子賞表彰式

個別目標2-2	きずなづくり・まちづくり
地域におけるきずなづくりや、市民主体のまちづくりに資するため、まちづくりへの市民参画やまちのにぎわい・交流を促進する学習・文化・スポーツ活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項目	内容
取組みの成果	<p>(1) 「まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進」については、図書館では「語り手育成講習会」、「学校図書館クリニック」などの参加者が、習得した知識と技術を生かして、図書館や学校などで活躍しており、また、百年記念館では、ボランティア養成講座の受講者が、「音の博物館」、「レコードコンサート」の開催や展示解説などを行っています。そのほか、動物園では、帯広畜産大学の学生ボランティアによる動物とのふれあい事業のサポートや、独自のイベント企画など、自主的な活動に取り組んでおり、いずれも定着したボランティア活動が事業展開の大きな支えとなっています。</p> <p>(2) 「にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興」については、おびひろ市民芸術祭において、より多くのジャンルの団体が参加しやすくなるよう工夫に努め、発表・活動の場への参加団体数は目標値を達成しました。また、ワールドカップスピードスケート競技会や女子 U18 アイスホッケー世界選手権などの国際大会を開催したほか、日本クラブユースサッカー選手権やフードバレーとかちマラソン大会などの全国規模の大会開催により、集客数が増えたことから、各種スポーツ大会の観客数は目標値を上回りました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1) 「まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進」については、青少年リーダー養成事業参加者数は、趣味や習い事など、学校外での過ごし方が多様化してきたことなどから、前年度より 18 名減少し、目標値を下回りました。引き続き、事業の積極的な周知に努め、ジュニアリーダー養成事業や各種体験活動事業に取り組みます。また、図書館、百年記念館、動物園などの社会教育施設では、ボランティアの知識・技術の向上、継承をはかりながら、活動できる人員の充実を努めるとともに、ボランティアの自主性を促しながら、知識・技術の専門性を活かした活動の場を今後も提供していきます。</p> <p>(2) 「にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興」については、文化活動について構成員の高齢化や小規模化がすすんでいることから、芸術文化に関わる団体の活動の継続・活性化のため、文化団体等が意見・情報交換する機会の提供や情報収集の手法を検討します。スポーツ合宿団体数は、大会数の増加により練習場所が確保できず、目標値を下回りました。新総合体育館が令和2年2月に供用を開始することから、新たな団体の確保に向け、帯広市スポーツ合宿・大会誘致推進実行委員会や関係団体と連携し、北海道はもとより首都圏への誘致活動の強化をはかります。</p>

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H30 実績値	H31 目標値
		H30 目標値	
青少年リーダー養成事業参加者数（人）	208	248 255	260
学習成果の活用事例数（件）	1 (H20)	8 9	10
発表・活動の場への参加団体数（団体）	56	79 64	65
各種スポーツ大会の観客数（万人）	16.0	22.3 20.8	20.8
スポーツ合宿団体数（団体）	150 (H20)	154 200	200

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 語り手育成講習会

図書館では、学校・図書館・地域で行われる読書ボランティア活動を希望される方を対象とした講習会を継続して開催しています。

初心者向けの入門編では、読み聞かせの基礎・おはなし会のプログラムの組み方について学びます。経験者向けのステップアップ編では、おはなし会でよく使う演目についての講座や年齢対象ごとの選書、進行について掘り下げて学びます。

平成30年度は、入門編に18人、ステップアップ編に49人の参加がありました。



語り手育成講習会
(入門編)の様子

◆ ワールドカップスピードスケート競技会の開催

ワールドカップスピードスケート競技会は、平成30年11月16日から3日間の日程で、明治北海道十勝オーバルを会場に開催され、24カ国から225人の選手が出場しました。

平昌オリンピックのメダリストや、地元出身の選手も出場し、女子チームパシュートでは日本チームがリンクレコードで金メダルを獲得しました。

また、選手たちを応援しようと、3日間で5,000人を超える大勢の観客が詰めかけ、大歓声に沸きました。



ワールドカップスピードスケート競技会マスタートの様子

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

基本方向1	学校・家庭・地域の連携
学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に協力しながら、社会を挙げて教育を充実することができるよう、学校・家庭・地域の連携をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項目	内容
取組みの成果	<p>(1)「開かれた学校づくり」については、全小中学校と常広南商業高等学校で学校評議員制度を活用し、学校運営に関して意見をいただいたほか、行事に招待するなど、開かれた学校づくりをすすめました。また、コミュニティ・スクールの導入に向けた内部検討をすすめるとともに、制度の周知を目的とした教職員・地域住民向け研修会を行いました。</p> <p>(2)「家庭教育への支援」については、地域子育て支援センターにおいて、妊婦向け講座の開催を増やし、妊娠期からの支援の充実をはかったことなどにより、子ども1人当たりの子育て支援センター等の利用回数は目標値を上回りました。また、家庭教育学級では、各学級での学習会や、バス学習・合同レクなどの交流を通して、子どもの健全な成長発達や親自身の成長に役立つ学習を行い、家庭の持つ教育力を高めました。そのほか、百年記念館の親子陶芸教室や動物園の「親子で挑戦！動物園のミステリークイズ」など、親子が楽しみ、きずなを深める機会を提供しました。</p> <p>(3)「家庭や地域による教育支援の推進」については、「こども学校応援地域基金プロジェクト」により、様々なボランティア団体がつながり、子どもを地域ぐるみで応援する取り組みをすすめてきた結果、全ての小中学校で活用されており、学校支援ボランティアを活用した学校数は目標値を上回っています。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)「開かれた学校づくり」については、今後もコミュニティ・スクールに関する情報を収集するほか、新任学校評議員研修会の開催や学校関係者評価者としての役割など、研修機会や学校評議員制度の活用の充実に努めます。また、教職員や地域住民等への周知をすすめながら、コミュニティ・スクールの導入に取り組みます。</p> <p>(2)「家庭教育への支援」については、「すこやかネット」を通じて、妊婦と0才から就学前の子どもをもつ保護者を対象に子育てのアドバイスや施設マップのほか、離乳食やわらべうた、サークル情報を動画で配信するなど、子育てに役立つ情報の提供に取り組みます。</p> <p>(3)「家庭や地域による教育支援の推進」については、学校支援地域本部のコーディネーターやボランティアの高齢化に伴い人材の確保が難しいことから、各種団体との情報交流を行い、地域の人材発掘や活動内容の充実に努めるほか、団体と人をつなぐコーディネーターのあり方について検討します。</p>

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H30 実績値	H31 目標値
		H30 目標値	
子ども1人当たりの子育て支援センター等の 利用回数（回）	10.2	18.3	12.0
		11.9	
子育てメール通信の利用率（%）	23.8 (H20)	35.0	60.0
		56.7	
学校支援ボランティアを活用した学校数（校）	2	40	40
		36	

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 親子陶芸教室

百年記念館では、4歳から中学生のお子さんと保護者を対象に、親子で陶芸を楽しんでもらうことを目的として「親子陶芸教室」を開催しています。陶芸初心者から経験者まで幅広く楽しめる陶芸を親子で気軽に体験することにより、創造活動の楽しさ、奥深さを知っていただく機会を提供しました。

平成30年度は夏に3回、冬に2回の計5回を開催し、延べ80組 199人の親子の参加がありました。



「親子陶芸教室」の様子

◆ こども学校応援地域基金プロジェクト

帯広市では、平成27年度から「こども学校応援地域基金プロジェクト」を立ち上げ、子どもたちのために地域で活動しているボランティア団体同士の、横のつながりを深めるための取り組みを始めました。

また、平成28年4月に、地域で子どもたちのために活動しているボランティア団体等に対する、財政面からの本格的な支援として、寄附の受入を目的とした「こども学校応援地域基金」を創設し、平成30年度は基金からの交付金を活用した「横のつながり」を意識した取り組みが、10の団体で行われました。



ボランティア同士のつながりを深める「こども応援！みらいカフェ」の様子

基本方向2	教育を支える人材の育成
専門性や豊かな人間性などを備えた、教育を支える人材を確保するため、教員や地域の指導者などの育成に取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項目	内 容
取組みの成果	<p>(1)「教員の人間力・指導力の向上」については、研修内容の充実や教員に対する研修機会の周知・徹底をはかったことにより、教職員1人当たりの研修受講回数は、目標値を上回りました。また、指導主事による学校訪問において、学校力と教員の指導力が向上するよう、管理職や教職員に指導・助言を行ったほか、学力向上推進プロジェクトチームによる学級経営・授業改善ワンポイント講座を開催し、教員の指導力向上に努めました。そのほか、教職員の勤務状況の改善等に向けて、「帯広市立学校における教職員の働き方改革推進プラン」を作成し、部活動休養日や学校閉庁日の設定などに取り組みました。</p> <p>(2)「地域の人材の発掘・育成・活用」については、教育、文化やスポーツなどの様々な分野で活躍している指導者へ登録を呼びかけるとともに、指導者募集チラシの配置箇所拡大、関係課協力のもと小中学校児童生徒の保護者への直接配付、市内町内会巡回覧等の周知を行った結果、地域の指導者の登録者数は目標値を上回りました。また、地域のスポーツ文化であるスピードスケートの普及振興を推進するため、十勝管内小学校の授業開放を実施するなど、明治北海道十勝オーバルの利用促進をはかったほか、「ほっとドリームプロジェクト」では、指導者や教員の指導力向上のための講習会などを開催し、人材育成をはじめ、競技力向上やスピードスケート人口の拡大に取り組みました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)「教員の人間力・指導力の向上」については、学校教育の推進には教員の力量や人間性などに負うところが大きいことから、教育課題に合致した教員研修の工夫や公開研究会の充実をはかり、積極的な受講や参加を呼びかけるほか、教員リーダー育成事業「ONE-UP研修会」において、教員の資質能力や豊かな人間性と社会性の向上をはかります。また、教職員の勤務状況の改善に向けて、「帯広市立学校における教職員の働き方改革推進プラン」に基づく取り組みを推進します。</p> <p>(2)「地域の人材の発掘・育成・活用」については、高齢化等により活動を終了した文化団体が年々増加しており、ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数は前年度より8団体減少し、目標値を下回りました。引き続き、ホームページに掲載していない団体へ積極的にPRをはかり、団体数の確保に取り組みます。</p>

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H30 実績値	H31 目標値
		H30 目標値	
教職員1人当たりの研修受講回数（回）	22	34 28	30
地域の指導者の登録者数（人）	138	200 185	190
ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数（団体）	260	266 271	272

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 教職員の研修

教員リーダー育成事業「ONE-UP研修会」においては、教員の資質能力や豊かな人間性と社会性の向上を目指し、多種多様な業種の方の話聞き、参加した教員で交流をはかりました。

平成30年度は計3回実施し、延べ164人が参加しました。

1月に行われた研修会では、学校業務改善アドバイザーである妹尾昌俊氏を講師に招き、学校の働き方改革について、研鑽を深めました。



「ONE-UP 研修会」の様子

◆ 生涯学習指導者登録制度

生涯学習指導者制度とは、趣味、教養、芸術、文化、スポーツなどの様々な分野で活躍している個人又は団体を「帯広市生涯学習指導者」として登録し、地域における学習活動（講演会やイベント等）を支援する制度です。

ご登録いただいた情報は、市ホームページを通して多くの皆さまに提供しています。

平成30年度の登録者数は、目標値185人のところ200人となり、地域の人材の発掘や情報提供ができました。



基本方向3	教育環境の充実
市民が生き生きと学ぶことができるよう、安全・安心で利用しやすく、環境負荷の低減にも配慮した教育環境の整備をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項目	内 容
取組みの成果	<p>(1)「学校教育の環境整備」については、小・中学校校舎の耐震化率は、目標値の100%を達成しているほか、非構造部材の耐震化として屋内プール天井の落下防止対策工事も完了しています。また、老朽化のための施設整備にかかるコスト縮減及び予算の平準化をはかりつつ、現代の学校に求められる施設の機能・性能を確保するため「帯広市学校施設長寿命化計画」を策定しました。</p> <p>(2)「社会教育の環境整備」については、図書館において「図書館ベティア！（SNSを活用した情報発信）」を開始したほか、移動図書館バスのチラシを町内会の班回覧にて周知するなど、図書館サービスの利用促進をはかりました。また、とかちプラザの空調設備の修繕、百年記念館のトイレ洋式化修繕や市民文化ホールの非常発電機始動用蓄電池の修繕や大ホールの改修、動物園のゾウ舎暖房機修繕など、社会教育施設の整備を行い、市民利用の利便性の向上と安全性の確保に努めました。</p> <p>(3)「保育・体験活動の環境整備」については、老朽化や保育需要に対応した保育所の修繕や改修を行いました。また、児童会館において科学関連・文化関連の催事・イベントを継続的に行い、集客が好調であったことや、子ども向けの軽運動施設・室内遊びの場としての役割が浸透してきたことなどにより、入館者数は前年に比べ約4千人増加し、目標値を上回りました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)「学校教育の環境整備」については、「帯広市学校施設長寿命化計画」に基づき、計画的に修繕を行い、教育環境の施設の長寿命化及び機能・性能の改善に努めます。</p> <p>(2)「社会教育の環境整備」については、図書館において、子ども連れの利用者等の減少に伴い貸出冊数が減少したことなどから、市民1人当たりの図書等の貸出点数は目標値を下回りました。利用者の増加に向け、年齢に応じたブックリストの配布や蔵書の充実など、引き続き、利用者サービスの向上に取り組みます。また、多くの施設において老朽化がすすんでいることや、更新時期を迎える設備があることから、市民の学習拠点である施設の機能を維持できるよう、施設状況を適切に把握し、施設・設備の修繕等を行い、利用者の安全性の確保をはかるとともに、引き続き利用者サービスの向上に努めます。</p> <p>(3)「保育・体験活動の環境整備」については、引き続き、「帯広市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、老朽化した保育所や児童保育センターの改修などをすすめるとともに、需要が高い低年齢児の受入枠の確保に向けた取り組みや、へき地保育所の認可保育所等への移行をすすめるなど、保護者のニーズや事業者の意向を把握しながら、質の高いサービスが提供できる体制づくりをすすめます。</p>

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H30実績値	H31 目標値
		H30 目標値	
小・中学校校舎の耐震化率 (%)	46.5	100.0	100.0
		100.0	
市民1人当たりの図書等の貸出点数 (点)	5.4	5.2	7.0
		6.9	
児童会館の入館者数 (万人)	10.9 (H17-19 平均)	15.0	12.0
		11.9	

※貸出点数は年間の点数

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 市民文化ホール大ホールの改修

市民文化ホールは、様々な文化の発信・交流の拠点施設として、多彩なイベントや鑑賞の機会を提供しており、安全・安心に利用できるよう施設の維持・管理に努めています。

平成30年度は、大ホールの客席椅子1,540席を地元企業から寄贈いただき交換しました。また併せて、ホールの利便性・安全性向上のため、床の張替え、客席誘導灯(足下灯)の更新、車椅子スペースの拡張等の施設の改修を行いました。



改修後の大ホール

◆ 学校トイレの洋式化

平成30年度は北栄小学校・川西小学校・清川小学校・大正小学校・愛国小学校・第七中学校・川西中学校・清川中学校・八千代中学校・帯広南商業高等学校の10校計71基の和式トイレを洋式化しました。

令和元年度は小学校5校計111基の洋式化を目指しています。

※原則、各トイレには和式便器を1基残しています。



洋式化修繕を実施した北栄小トイレ

基本方向4	教育機会の確保
<p>家庭の経済状況や障害の有無などに関わらず、安心して教育を受けることができるよう、教育機会の確保に向けた取組みをすすめます。</p>	

○ 点検及び評価の結果

項目	内 容
取組みの成果	<p>(1) 「就学・進学への支援」については、農村地域で遠距離通学となる児童生徒や、プール授業等の移動手段としてスクールバスを運行しました。また、経済的な理由により児童生徒の就学が困難な保護者へ学用品費等を支給している就学援助費については、平成30年度から新小学1年生に対する新入学学用品費の入学前支給を実施しました。そのほか、高校や大学等への進学機会の確保のため、私立高等学校生徒授業料補助や奨学金により保護者の負担を軽減するとともに、市内高校の間口確保のため、「帯広市高等学校間口対策協議会」を中心に情報収集を行いました。</p> <p>(2) 「健やかな発達の支援」については、特別な配慮を必要とする子どもの教育的ニーズを把握しながら、学校や地域の状況、保護者や専門家の意見等を総合的に勘案しながら特別支援学級の設置をすすめたことにより、設置数は目標値を上回りました。また、対象児童生徒の増加に伴いニーズも多様化していることから、特別支援教育補助員を増員したほか、助手や生活介助員（看護師資格を有する者を含む）も継続して配置し、特別支援教育の充実をはかりました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1) 「就学・進学への支援」については、スクールバスの安定的な運行に向け、車両の更新や運転手の確保などを検討するほか、就学・進学における経済的負担を軽減するため、国、道や他市町村の動向も踏まえながら、今後とも就学援助等の制度を適切に運営していきます。また、市内高校の間口を維持・確保するため、引き続き「帯広市高等学校間口対策協議会」を通して情報収集や要望活動を行います。</p> <p>(2) 「健やかな発達の支援」については、特別な配慮を必要とする児童生徒に対し適切な支援や教育を行うため、引き続き、特別支援教育補助員や助手、生活介助員を各学校の実情を踏まえて配置するほか、合理的配慮（※）の考え方に基づいた環境の整備に努めます。</p> <p>※合理的配慮：障害のある方から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合に、負担になり過ぎない範囲で、社会的障壁を取り除くこと。</p>

○ 参考1：成果指標の状況

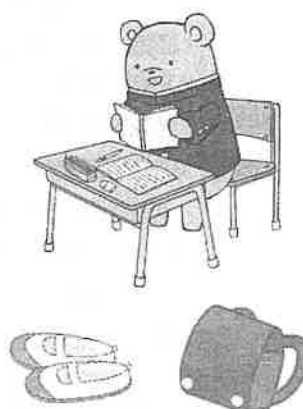
指 標 名	H19 基準値	H30 実績値	H31 目標値
		H30 目標値	
特別支援学級の設置数（学級）	38	84	59
		59	

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 就学援助費の拡充

就学援助費は、経済的な理由により児童生徒の就学が困難な世帯に対し、必要となる費用を支給する制度です。修学旅行費、学校給食費、学用品費、新入学学用品費、医療費、宿泊を伴う校外活動費、PTA 会費、生徒会費を支給し、保護者の経済的負担の軽減をはかりました。

また、新入学学用品費については、より使いやすい制度となるよう、平成 29 年度は、新中学 1 年生分を入学前に支給していましたが、平成 30 年度からは、新小学 1 年生分も同じように支給し、入学前の 2 月に前倒した支給をしています。



◆ 特別支援教育の充実

「特別支援教育」とは、特別な配慮を要する児童生徒に対し適切な支援や教育を行うことです。

児童生徒の成長に合った適切な就学を図るため、特別支援教育の専門家で構成された教育支援委員会において、就学先を決定するための教育相談を平成 30 年度は 412 件実施しました。

また、特別支援学級については、新たに知的学級を 1 校で開設したほか、介助が必要な児童生徒のために 28 人の生活介助員を配置するとともに、発達障害などの理由により、学校生活に困り感を抱える児童生徒を支援するため、60 人の特別支援教育補助員を配置しました。



特別支援学級の授業の様子

基本方向5	よりよい教育のためのしくみづくり
<p>地域の実情に応じた、より質の高い、魅力ある教育を推進するため、よりよい教育のためのしくみづくりをすすめます。</p>	

○ 点検及び評価の結果

項目	内 容
取組みの成果	<p>(1)「魅力ある学校づくりの推進」については、おびひろっ子学び支援事業やおびひろっ子絆支援事業において、地域と密着した活動や人材の活用など、全小中学校で特色ある学校づくりに努めました。</p> <p>(2)「学校教育のしくみの工夫改善」については、幼保・小・中間の相互連携をはかるため、「帯広市エリア・ファミリー構想」にある全地区（14 エリア）においてエリア会議を開催しました。また、小中一貫教育の推進に向けて、「帯広市小中一貫教育推進基本方針」を策定したほか、小中学校適正規模適正配置の推進による、より良い教育環境の整備をすすめるため、「帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画」を策定しました。</p> <p>(3)「社会教育施設の利用の促進」については、とかちプラザのトレーニングルームや百年記念館の常設展示室の入館者数が堅調に推移した結果、社会教育施設の総利用者数は目標値を上回りました。また、動物園が地域で果たすべき役割や整備のあり方について議論する「おびひろ動物園魅力アップ検討委員会」を設置し、意見や検討内容を報告書としてとりまとめました。</p> <p>(4)「地域の実情に応じた教育行政の推進」については、市内4か所で教育懇談会を開催し、教育長と教育委員が地域に出向いて市民と教育行政に関する意見交換を行い、その概要をホームページに掲載し、市民周知をはかったほか、(仮称)第二期帯広市教育基本計画策定に向け、アンケートの実施や市民検討委員会を開催しました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)「魅力ある学校づくりの推進」については、学校支援地域本部のコーディネーター活用等により人材発掘と確保をはかり、地域と連携した教育活動の充実にも努めます。</p> <p>(2)「学校教育のしくみの工夫改善」については、「帯広市エリア・ファミリー構想」の考え方を教職員はもとより、地域や保護者に広く浸透させるとともに、小中一貫教育の推進をはかります。また、「帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画」に基づき、教職員・保護者・地域住民等で構成する大空地区義務教育学校準備協議会を設置し、開校準備作業をすすめます。</p> <p>(3)「社会教育施設の利用の促進」については、文化施設の利用者数は、市民文化ホール大ホール客席椅子の更新工事の影響等により、前年度に比べて減少し、目標値を下回りました。また、スポーツ施設の利用者数についても、明治北海道十勝オーバルの利用が好調であるものの、平成28年の台風の影響により一部の施設が使用できない期間があったため、目標値を下回りました。今後も各施設の利用者の増加に向けて情報発信に努めます。</p> <p>(4)「地域の実情に応じた教育行政の推進」については、幅広い市民や教育関係団体の意見を反映できるよう、教育懇談会の会場や開催方法の工夫と改善に努めます。</p>

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19基準値	H30実績値	H31目標値
		H30目標値	
社会教育施設の総利用者数(万人)	95.2	110.6 95.2	95.2
文化施設の利用者数(万人)	54.8	53.6 60.0	60.0
スポーツ施設の利用者数(万人)	114.8	113.0 128.6	128.6

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 学校適正規模の確保等の取組み

大空中学校の小規模化による課題への対応を検討する、大空中学校適正規模の確保等地域検討委員会を設置・開催(全5回)し、意見書の提出を受けました。

この意見書を踏まえ、「帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画」を策定し、令和4年度に大空中学校と大空小学校を統合した、施設一体型の義務教育学校を設置することとしました。



大空中学校適正規模の確保等
地域検討委員会の様子

◆ おびひろ動物園魅力アップ検討委員会の設置

動物園が、今後地域で果たしていくべき機能や、整備のあり方を議論するため、有識者や庁内関係課による検討委員会を設置しました。

市民に向けたフォーラムを開催し、道内の動物園長・水族館長によるパネルトークやアンケート等を実施しました。意見や検討内容をもとに、十勝の地域性を活かした動物の展示や学習機会の提供など、五つの魅力づくりのための柱からなる報告書としてまとめられました。



おびひろ動物園魅力アップ検討
委員会の様子

3 教育に関する学識経験者の意見

公益財団法人 とかち財団 理事長 長 澤 秀 行

(国立大学法人 帯広畜産大学 前学長)

帯広市教育基本計画に沿って実施された平成 30 年度の取組みについて、個別目標及び基本方向ごとに実施された点検・評価は適切であると判断します。

成果指標の達成状況については、個別目標1-3健やかな体づくりにおける「スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数」が目標値を大幅に上回る結果となっています。これは、スポーツに触れ、楽しむ機会を多く提供したことのほか、指定管理者と連携し、講習会などの内容の充実に努めた結果です。引き続き、多くの市民がスポーツに親しみ、楽しむことのできる機会を増やしていただきたいと思います。

また、ワールドカップスピードスケート競技会、女子U18アイスホッケー世界選手権、日本クラブユースサッカー選手権、フットバレーとかちマラソン大会などの全国規模の大会開催により、集客数が増えたことは評価されますが、一方で、大会数の増加により練習場所が確保できないためにスポーツ合宿団体数は目標値を下回っています。合宿施設の整備拡充を期待します。

「地域の指導者の登録者数」も目標値を上回っています。これは、生涯学習指導者登録制度によるところが大きいと考えますが、関係課協力のもと、指導者募集のチラシ配置箇所の拡大や、児童生徒の保護者への登録呼びかけ、町内会への回覧等の周知を行った結果によるものであり、関係各位の努力の賜物と推察されます。一方で、高齢化による影響と思われるが、「地域の人材の発掘・育成・活用」に関わる文化団体が減少傾向にあることから、教育を支える人材の育成と、学校・家庭・地域の連携による組織的な対応が求められます。

また、平成30年度の取り組みとして特筆すべき項目が3点挙げられます。1つ目は「帯広市立学校における教職員の働き方改革推進プラン」の作成です。部活動休養日や学校閉庁日の設定などにより、教職員の勤務状況を改善するこのような取り組みは、教育を支える人材の育成の観点から更に推進すべきであると考えます。2つ目は「就学援助費」の拡充です。教育機会を確保することは、家庭の経済状況に関わらず重要です。平成30年度からは、新中学1年生への入学前の学用品支給に加え、新小学1年生に対しても入学前の2月に支給を実施しています。経済的な理由により児童生徒の就学が困難な世帯に対して、就学援助費を支給することは、次代を担う子どもたちを地域が支えるという観点から、大いに評価すべきです。3つ目は「帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画」の策定です。小中学校適正規模適正配置については、地域における学校の役割を考慮しつつ、教育内容の充実を図ることが重要であり、少子化への対応という難題解決に向けて、今後も教職員・保護者・地域住民等が協力し、子どもたちにとってよりよい教育環境づくりの推進を期待します。

「ふるさとの風土に学び、人がきらめき、人がつながる、おびひろの教育」という帯広市教育基本計画の目標を達成するために、引き続き、それぞれの施策を進めていただきたいと思います。

元社会教育委員長 樋 渡 康

平成30年度の点検・評価にあたり、生涯学習、学校支援等、子どもや大人の学びの場に関わる立場から意見を申し述べます。帯広市教育基本計画は、次年度（令和元年度）が最終年度となっており、諸施策推進の成果が問われます。実績値は、全34指標のうち、目標値達成は19指標（55.9%）ですが、平成29・30年度の実績値を見ますと、目標値前後を推移している指標が多く、課題に向けた計画推進の成果であると考えます。

基本目標（1）「次代を担う人づくり」における「知識・技能の習得」では、重要課題である学力の向上について、学習指導要領に準拠して毎年度同一方式で実施している標準学力検査の結果は、40観点（全42観点、前年度41観点）で目標値（41観点）に達しなかったものの、高い水準にあり、学校における今後の授業改善や家庭と連携した家庭学習の取組みに期待します。また、帯広南商業高等学校では、就職率100%を維持しましたが、検定の3種目以上1級取得率は目標値を下回ったことから、対策が望まれます。地域関係では、「地域から発想する生涯学習」を合言葉に地域での講座等を企画、実施する生涯学習推進委員会、主に地域ボランティアが運営する、子どもの居場所づくり事業は、地域ボランティア育成の面からも評価できる活動です。

「豊かな心の育成」については、朝読書の取組みなどにより、学校図書館における児童・生徒1人当たりの貸出冊数が目標値を上回っておりますが、市図書館の活用、学校図書館の蔵書の充実が望まれます。

一方で、不登校児童・生徒の学校復帰率は原因の多様化等により、低い状況にあり、相談体制の強化が必要であると考えます。

「健やかな体づくり」については、スポーツ大会や教室の参加者数が目標値を上回っており、多くの市民がスポーツに親しみ、楽しむことができる機会づくりに努めていることが評価できます。

基本目標（2）「ともに学びきずなを育む地域づくり」では、地域について学ぶ講座等への参加者数が、百年記念館の歴史資料の展示、出前講座、自然観察会等の事業、図書館の郷土に係る事業により目標値を上回り、成果と言えます。郷土関係の資料や情報は、両施設が所有・保管しており、今後、より連携した事業が求められるでしょう。

「きずなづくり・まちづくり」については、スポーツ合宿団体数が減少しており、誘致活動の在り方を再検討する必要があると考えます。

基本目標（3）「基本目標を実現するための基盤づくり」では、「よりよい教育のためのしくみづくり」について、「帯広市小中一貫教育推進基本方針」、「帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画」が策定され、新たな教育の推進に期待します。また、新小学校1年生への入学前の就学援助金の支給、特別支援学級の新たな開設、特別支援教育補助員増員等、評価できる多くの施策が見られます。「教育を支える人材の育成」については、生涯学習指導者登録者制度の登録者が目標値を上回る200人となりましたが、どのように周知し、学習等にいかしていくのかが課題であると考えます。

報告書では、平成30年度の実績と成果、課題及び方向性が明確に示されております。教育行政の推進には、市民協力が不可欠であり、より積極的で、充実した情報発信につとめ、最終年度に向けて、更なる施策の推進を期待します。

参 考 资 料

○ 平成30年度教育委員会の活動状況

(1) 帯広市教育委員名簿

平成31年3月31日現在

役職	氏名	備考
教育長	嶋崎 隆則	平成28年10月26日就任
委員（教育長職務代理者）	田中 厚一	平成19年4月1日就任（平成28年10月26日職務代理者就任）
委員	藤澤 郁美	平成27年6月23日就任
委員	佐々木 しゅり	平成28年6月23日就任
委員	塩野谷 和男	平成28年12月21日就任

(2) 教育委員会会議の開催状況（平成30年度）

期日	番号	案件
第7回 平成30年4月23日	議案第17号 議案第18号 議案第19号 その他	帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する計画について 帯広市社会教育委員の解職について 帯広市社会教育委員の委嘱について (1)平成30年度 確かな学力の向上・定着に向けて ＝学力の向上・定着に向けた基本的な考え方＝について (2)平成30年度 子供達の健やかな体の育成に向けて ＝体力・運動能力等の向上に向けた基本的な考え方＝について (3)今後の事業予定について (4)寄附受納について
第8回 平成30年5月21日	議案第20号 報告第8号 報告第9号 報告第10号 その他	帯広市立学校における教職員の働き方改革推進プランについて 学校施設劣化状況調査の結果及び（仮称）帯広市学校施設 長寿命化計画の策定について 帯広市教育支援委員会委員の委嘱について 帯広市図書館協議会委員の任命について (1)今後の事業予定について (2)寄附受納について
第9回 平成30年5月28日	議案第21号 議案第22号	平成30年度帯広市教育行政執行方針について 平成30年度帯広市一般会計補正予算について
第10回 平成30年6月25日	議案第23号 議案第24号 報告第11号 報告第12号 報告第13号 報告第14号 報告第15号 その他	教職員の処分内申について 帯広市立高等学校教育職員等の表彰について 帯広市教科用図書選定委員会委員の委嘱について 平成30年度「おびひろっ子学び支援事業」及び 「おびひろっ子絆支援事業」について 帯広市教育研究所運営委員会委員の委嘱について 帯広市学校給食センター運営委員会委員の解任及び任命について 第8回中城ふみ子賞受賞者について (1)今後の事業予定について (2)寄附受納について
第11回 平成30年7月4日	議案第25号 議案第26号 議案第27号 議案第28号	職員の人事について 帯広市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 帯広市教育委員会職員職名規則の一部改正について 帯広市教育施策推進委員会設置規程の一部改正について
第12回 平成30年7月25日	報告第16号 報告第17号 その他	帯広市スポーツ推進審議会委員の解任及び任命について 教職員の処分について (1)帯広市議会6月定例会の報告について (2)今後の事業予定について (3)寄附受納について
第13回 平成30年8月3日	議案第29号 議案第30号 議案第31号 報告第18号	小学校用教科用図書の採択について 中学校用教科用図書の採択について 高等学校用教科用図書の採択について 教科用図書の採択に係る情報の公表について
第14回 平成30年8月27日	議案第32号 議案第33号 議案第34号 議案第35号 その他	平成29年度帯広市一般会計歳入歳出決算認定について 平成30年度帯広市一般会計補正予算について 帯広市奨学条例施行規則の一部改正について 帯広市私立高等学校生徒授業料補助規則の一部改正について (1)今後の事業予定について (2)寄附受納について

期日	番号	案件
第15回 平成30年9月26日	議案第36号 議案第37号 議案第38号 報告第19号 報告第20号 その他	教職員の処分内申について 平成30年度帯広市文化賞及び文化奨励賞等の決定について 平成30年度帯広市スポーツ賞及びスポーツ奨励賞の決定について 帯広市教育支援委員会委員の委嘱について 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について (1)今後の事業予定について (2)寄附受納について
第16回 平成30年10月26日	議案第39号	職員の人事について
第17回 平成30年10月30日	議案第40号 議案第41号 報告第21号 報告第22号 報告第23号 その他	平成31年度帯広市立高等学校の入学者募集について 平成30年度帯広市市民文芸賞及び市民文芸準賞の決定について 大空中学校適正規模の確保等地域検討委員会の意見書について 教職員の処分について 帯広市立小中学校の長期休業日の見直し(案)について (1)帯広市議会9月定例会の報告について (2)平成30年度教育懇談会の開催について (3)今後の事業予定について (4)寄附受納について
第18回 平成30年11月15日	議案第42号 議案第43号 議案第44号 議案第45号 報告第24号 報告第25号 報告第26号 報告第27号 その他	平成30年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について 公の施設の指定管理者の指定について(十勝川河川敷運動施設) 公の施設の指定管理者の指定について(札内川河川敷運動施設) 平成30年度帯広市一般会計補正予算について 帯広市小中一貫教育推進基本方針(原案)について (仮称)帯広市学校施設長寿命化計画(原案)について 2020年度の帯広市立中学校の通学区域変更案について 給食費の改定について (1)今後の事業予定について (2)寄附受納について
第19回 平成30年12月27日	議案第46号 報告第28号 報告第29号 報告第30号 その他	帯広市小、中学校通学区域規則の一部改正について (仮称)第二期帯広市教育基本計画に関する提言書(学校教育分野)について (仮称)第二期帯広市教育基本計画に関する提言書(社会教育分野)について 平成30年度とかちジュニア文芸各賞の決定について (1)帯広市議会12月定例会の報告について (2)教育懇談会の概要報告について (3)今後の事業予定について (4)寄附受納について
第1回 平成31年1月16日	報告第1号 報告第2号 報告第3号 その他	帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画(原案)について 帯広市小中一貫教育推進基本方針(原案)に対するパブリックコメントの結果について 帯広市小中一貫教育推進基本方針(案)について (1)今後の事業予定について (2)寄附受納について
第2回 平成31年2月13日	報告第4号 報告第5号 報告第6号 報告第7号 報告第8号 報告第9号 その他	帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画(案)について 帯広市学校施設長寿命化計画(案)について 帯広市奨学生選考委員会委員の解職及び委嘱について 平成30年度帯広市教育研究実践表彰並びに帯広市学校文化活動奨励賞について 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について 給食費の改定についての答申について (1)今後の事業予定について (2)寄附受納について
第3回 平成31年2月18日	議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号	平成30年度帯広市一般会計補正予算について 平成31年度帯広市一般会計予算について 帯広市小中一貫教育推進基本方針について 帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画について 帯広市学校施設長寿命化計画について 帯広市学校給食センター条例の一部改正について 帯広市職員定数条例の一部改正について

第4回 平成31年3月22日	議案第8号 議案第9号 議案第10号 議案第11号 議案第12号 報告第10号 その他	平成31年度帯広市教育行政執行方針について 帯広市教育委員会会議規則等の一部改正について 教員の人事内申について 帯広市学校給食センター処務規程の一部改正について 帯広市スポーツ施設専門指導員設置規程の一部改正について 平成31年度帯広市学校教育指導の重点について (1)今後の事業予定について (2)寄附受納について
第5回 平成31年3月26日	議案第13号	職員の人事について

- ・教育委員会会議開催回数 18回
- | | | | | | |
|------|-----|-------|-----|------------------|------|
| 議決案件 | 43件 | うち非公開 | 27件 | (うち所定の手続き後会議録を公開 | 24件) |
| 報告案件 | 33件 | うち非公開 | 19件 | (うち所定の手続き後会議録を公開 | 17件) |
| その他 | 31件 | | | | |

〔参考〕教育委員会会議の非公開について

教育委員会会議は、公開が原則ですが、①個人の権利を侵害するおそれのあるもの、②職員の任免、賞罰、人事等、③附属機関の委員の任免、④議会の議案に係る意見申出、⑤訴訟、不服申立に係るもの、⑥教育行政の公正、円滑な運営に支障が生じるおそれがあるものについては、出席委員の3分の2以上の多数で、公開しないことができます。(帯広市教育委員会会議規則第16条)

(3) 課題研究協議会開催状況(平成30年度)

回数	期日	テーマ
1	平成30年5月21日	教科用図書採択について
2	平成30年7月25日	教科用図書の答申内容について 帯広市教育委員会において現在取り組んでいる主な項目について
3	平成30年10月30日	帯広市小中一貫教育推進基本方針(原案)について
4	平成31年1月16日	帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画(原案)について

(4) 総合教育会議の開催状況(平成30年度)

期日	番号	案件
第1回 平成30年11月29日	協議事項	帯広市小中一貫教育推進基本方針(原案)について

〔参考〕総合教育会議について

帯広市総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に基づき設置するもので、以下の事項について、帯広市長と帯広市教育委員会による協議及び事務の調整等を行うこととしています。

- 帯広市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定
- 帯広市の教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき措置
- 児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置

(5) 研修会参加状況(平成30年度)

期日	場所	研修会等	出席者
平成30年8月21日	岩見沢市	平成30年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会	1人
平成30年11月28日	帯広市	平成30年度十勝管内市町村教育委員研修会	3人

2回 延べ4人

(6) 行事等参加状況(平成30年度)

期日	行事名	出席者数
平成30年4月9日	市内小学校入学式	5人
平成30年4月9日	市内中学校入学式	5人
平成30年4月10日	帯広南商業高等学校入学式	3人
平成30年4月20日	帯広市体育連盟定期総会	1人
平成30年5月26日～ 平成30年5月27日	市内中学校体育祭	11人
平成30年5月26日～ 平成30年6月3日	市内小学校運動会	7人
平成30年6月29日～ 平成30年11月28日	市内小中学校公開研究会等	36人
平成30年8月3日	中城ふみ子賞表彰式	3人
平成30年9月3日	コミュニティ・スクール説明会	5人
平成30年9月29日～ 平成30年9月30日	市内中学校文化祭	2人
平成30年9月3日	平成30年度帯教研教育講演会	2人
平成30年10月8日	平成30年度帯広市スポーツ賞・スポーツ奨励賞贈呈式	4人
平成30年10月31日～ 平成30年11月12日	教育懇談会	12人
平成30年11月3日	平成30年度帯広市文化賞・文化奨励賞贈呈式	5人
平成30年12月15日	市民文芸 発刊を祝う会	1人
平成31年1月4日	帯広市新年交礼会	4人
平成31年1月13日	帯広市成人の集い	3人
平成31年1月26日	体育連盟功労者授賞式	1人
平成31年1月30日	交流給食会(柏小学校)	1人
平成31年2月22日	北海道教育実践表彰(豊成小学校、南町中学校)	1人
平成31年2月24日	とかちジュニア文芸賞表彰式	4人
平成31年2月28日	平成30年度帯広市教育研究実践表彰及び文化活動奨励賞授賞式	4人
平成31年3月1日	帯広南商業高等学校卒業式	3人
平成31年3月15日	教育実践表彰(啓北小学校)	2人
平成31年3月15日	市内中学校卒業式	3人
平成31年3月22日	市内小学校卒業式	5人
平成31年3月29日	教職員辞令交付式	5人

延べ138人

○ 平成30年度教育行政執行方針(抜粋)

1. 基本的な考え方

帯広市教育委員会としては、わが国における教育を取り巻く環境の変化を踏まえ、本市の教育大綱でもある帯広市教育基本計画の基本理念として定めた、「ふるさとの風土に学び人がきらめき 人がつながる おびひろの教育」を実現するため、それぞれの施策を進めてまいります。

学校教育分野においては、小中学校の適正規模の確保等に関する取り組みを推進してまいります。さらに、地域特性を踏まえて、小中一貫教育への対応に向けた取り組みや学校施設の整備など、学校教育を推進していく上で必要な環境整備を進めてまいります。

生涯学習分野においては、市民のだれもが学びたいときに学ぶことができる環境づくりに向けた、多様な生涯学習機会の提供のほか、市民主体の文化活動、スポーツ合宿・大会の誘致活動、重要文化財の保全や活用などを促進するとともに、学習活動の基盤となる社会教育施設の計画的な整備などを進めてまいります。

また、2年後から始まる次期帯広市教育基本計画の策定作業や帯広市文化振興指針の点検に着手してまいります。

2. 主な取組み

(1) 次代を担う人づくり

小学校においては、今後施行される次期学習指導要領への円滑な移行を図るため、中学年では外国語活動を、高学年では教科としての外国語の導入を先行実施するとともに、外国語指導講師(ALT)を増員するほか、プログラミング教育など新たな指導内容に関する教員への研修の充実を図ってまいります。

いじめについては、「帯広市いじめ防止等に関する基本的な方針」に則って、各学校と教育委員会が連携をより密にし、未然防止や早期解決に努めてまいります。

また、「特別の教科 道徳」として位置付けられた道徳科では、「考え、議論する道徳」を進め、豊かな心の育成に努めてまいります。

学校給食については、引き続き安定的な運営に努めるとともに、地元産食材を活用するなど帯広ならではの給食を提供してまいります。

帯広南商業高等学校については、引き続き十勝管内唯一の商業科として特色ある教育活動を進めるとともに、十勝・帯広に貢献できる人材を育成してまいります。

(2) とともに学びきずなを育む地域づくり

八千代 A 遺跡出土品については、国の重要文化財に指定されることを受け、帯広百年記念館の常設展示室の一部改修や特別企画展を実施してまいります。

また、北海道命名150年にあわせた、北海道立帯広美術館と連携した松浦武四郎展の開催や第8回中城ふみ子賞の実施など、地域の特色ある歴史や文化の理解を深める学習機会の提供、情報発信を進めてまいります。

スポーツについては、先の平昌オリンピックで活躍した十勝・帯広ゆかりの選手を紹介する展示ブースを明治北海道十勝オーバルに拡充するほか、ワールドカップスピードスケート競技会の帯広開催を支援するなど、国内外の人々が十勝・帯広を訪れる機会を創出してまいります。

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

帯広市における小中一貫教育の対応に関する基本的な考え方を取りまとめるほか、小中学校適正規模の確保等に関する取り組みとして、大空中学校地域における実施計画を策定してまいります。

また、コミュニティ・スクールの導入に向けた取り組みを進めるほか、学校施設の老朽化対策として（仮称）学校施設長寿命化計画の策定やトイレの洋式化を進めるなど、学校施設の整備を行ってまいります。さらに、学習環境の充実に向けて、大型提示装置などの整備や小学校の児童用机・椅子の更新を進めてまいります。

このほか、就学援助費のうち、新小学校一年生に対する新入学学用品費を就学前に前倒しして支給し、保護者の経済的負担の軽減を図るほか、教職員の働き方改革を推進してまいります。

社会教育施設については、施設の長寿命化や施設総量の適正化に取り組むほか、帯広市民文化ホール大ホールや、帯広の森野球場内野グラウンドの改修を行ってまいります。

また、おびひろ動物園の新たな魅力づくりの検討を始めるほか、社会教育施設が連携した事業を引き続き実施し、各施設の特色を生かした学習機会を提供するとともに、施設の利用促進を図ってまいります。

○ 平成30年度予算決算

単位 (円)

科 目	予算現額	決算額	翌年度繰越額	主な内容
教育費	5,271,080,040	5,141,248,822	0	
教育総務費	219,257,000	198,187,161	0	
教育委員会費	4,837,000	4,802,946	0	教育委員報酬及び会議等の出席に係る旅費等
事務局費	104,107,000	87,382,755	0	事務局運営費、教職員管理費、奨学金貸付事業等
指導研修費	86,603,000	83,068,974	0	教育相談員・学校評議員・外国人講師に係る報酬等
教育研究所費	20,532,000	19,996,268	0	所員報酬、教育研究所運営費等
教職員住宅費	3,178,000	2,936,218	0	教職員住宅の修理費
小学校費	1,321,986,000	1,279,535,325	0	
学校管理費	803,858,000	782,364,816	0	小学校管理費、プール・リンク造成・維持管理費、学校保健事業費、スクールバス運行事業費等
学校営繕費	39,542,000	39,120,515	0	学校営繕費
教育振興費	253,455,000	242,817,867	0	教材教具購入費、就学援助費、学校図書資料整備費、教育用コンピュータ管理費等
施設整備費	225,131,000	215,232,127	0	学校・学習環境整備費、リニューアル改修事業費
中学校費	536,975,000	524,019,358	0	
学校管理費	320,597,000	314,267,929	0	中学校管理費、リンク造成・維持管理費、学校保健事業費、スクールバス運行事業費等
学校営繕費	21,285,000	21,095,904	0	学校営繕費
教育振興費	186,702,000	180,828,122	0	教材教具購入費、就学援助費、学校図書資料整備費、教育用コンピュータ管理費等
施設整備費	8,391,000	7,827,403	0	学校・学習環境整備費、リニューアル改修事業費
高等学校費	132,196,000	126,740,481	0	
学校管理費	60,310,000	55,678,992	0	南商管理費、学校保健事業費、外国人英語指導助手報酬等
学校営繕費	4,356,000	4,329,007	0	南商営繕費
教育振興費	18,170,000	17,592,482	0	教材教具購入費、学習環境管理費、キャリア教育推進費
施設整備費	49,360,000	49,140,000	0	

単位 (円)

科 目	予算現額	決算額	翌年度繰越額	主な内容
社会教育費	884,602,453	868,987,224	0	
社会教育総務費	11,932,000	11,262,141	0	社会教育委員、嘱託職員等報酬、講座開催経費等
文化振興費	24,013,000	22,286,080	0	文化団体等補助金、事業開催負担金、文化財経費等
とちぎプラザ費	193,152,453	193,132,727	0	とちぎプラザ管理費
市民文化ホール費	207,922,000	205,443,578	0	市民文化ホール管理運営費、機器類リース料等
百年記念館費	79,956,000	76,279,238	0	百年記念館管理運営費、学会調査員等報酬、講座開催経費等
図書館費	198,313,000	196,029,825	0	図書館管理運営費、図書資料等整備費、郷土資料関連経費等
動物園費	141,617,000	137,137,529	0	動物園管理運営費、遊具管理費、施設修繕等
市民ギャラリー費	27,697,000	27,416,106	0	市民ギャラリー管理費
保健体育費	2,176,063,587	2,143,779,273	0	
保健体育総務費	84,193,000	76,324,836	0	スポーツ行事・活動関係経費、団体育成・大会開催費、学校開放経費、指導者育成経費等
体育施設費	958,653,587	953,160,059	0	社会体育施設管理運営費、施設修繕・改修費等
学校給食センター費	1,133,217,000	1,114,294,378	0	学校給食センター管理費、食材料費、委託料、学校給食食育推進費等

※翌年度繰越額は、繰越明許費

○ 平成30年度における主な取組み一覧

(1) 次代を担う人づくり

① 知識・技能の習得

展開方策	主な取組み
子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進	全国学力・学習状況調査、CRT標準学力検査、おびひろっ子学び支援事業、おびひろっ子絆支援事業、外国人講師の小中学校派遣、教育課程検討委員会、学力向上推進班（学力向上推進プロジェクトチーム含む）学級経営・授業改善ワンポイント講座開催（3回、延べ87人参加）、データベース教材の作成（国語科 言葉についての基礎・基本問題）、南商での外国人英語指導助手配置（1人）、ぶっくーる便（453件、15,855冊）、パスファインダー（全49種類のうち13種類改訂）、とかちジュニア文芸第9号（応募者197人、240作品）、動物のふしぎ行って！見て！調べよう！（19人）、ふしぎな木と草のはなし（5人）、小説・童話教室（9人）、短歌教室（5人）、俳句教室（9人）、詩教室（5人）、小学生の1日飼育係（2回、23人）、親子で挑戦！動物園のミステリークイズ（2回、43人）、幼児・児童動物画写生コンクール（241人）小学生のための動物園塾（1回、7人）
個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進	コミュニティ講座（25,364人）、生涯学習情報誌（情報誌「まなびや」成人向け4回、小学生向け2回）、自然観察会（15人）、郷土学習見学会（57人）、博物館講座（744人）、連続講座（63人）、地質講座（139人）、体験教室（34人）、企画展（5,450人）、収蔵作品展（1,283人）、レファレンス、地域防災訓練（明和小、840人）、冬季防災訓練（森の里小、184人）、防災グッズ展（700人）、学校での避難訓練（全小中学校）、防災講師派遣事業（10団体、343人）、防災セミナーinとかち2018（174人）、防災リーダー研修（72人）、防犯グッズ展（700人）、防犯講話（43団体、1,160人）、交通安全教室（362回、37,747人）、消費者講座・講演会（9回、477人）、地域消費者講座（24回、619人）、消費者被害予防教育講座（20回、1,434人）、みんなの消費生活展（1,850人）、防災出前講座（82団体、2,565人）、親子防災講座（44団体、5,846人）
職業に関する教育・学習活動の推進	おびひろキッズタウン2018（27企業等、児童360人）、南商インターンシップ事業（協力事業者66事業者）
高度情報化に対応した教育・学習活動の推進	教育用パソコンの活用（1,505台）、携帯電話販売店の立入調査（25店）、帯広市ネット非行対策講演会

② 豊かな心の育成

展開方策	主な取組み
子どもの社会性の育成	郷土体験学習（小学4年生対象）、自然体験学習（中学生対象）、適応指導教室の開設、教育相談員の配置、いじめ・不登校・非行等に関する対策委員会の設置、生徒指導アドバイザーの派遣、南商におけるボランティア活動（32クラブ）、放課後子ども広場の実施（26校、延べ687回、延べ22,017人）、中学生からのメッセージ（14人）、平成31年成人の集い（1,235人）、地域子ども会リーダー宿泊研修会（177人）、ジュニアリーダー養成講座「あすかの会」（22人）、ジュニアリーダー「あるふあの会」（41人）、子ども王国の開催、児童会館での体験活動（文化関連事業8,204人、宿泊学習等3,467人）、巡回指導（480回）、声かけ指導（442人）、ヤングテレホン相談（103件）、子ども親善訪問団相互派遣事業（徳島市6人派遣・6人受入、松崎町9人派遣・10人受入）
豊かな情操の育成と生きがいづくり	学校図書館の図書資料の整備・充実（4,202冊）、司書教諭の配置（29校、29人）、図書館・学校連携事業（ぶっくーる便453件・15,855冊、学校図書館クリニック1校2回）、コミュニティ講座（25,364人）、高齢者学級（171人）、生き生きふれあい祭（わかば会）、第37回おびひろ市民芸術祭（入場者数27,123人）、よしもとお笑いまつり in おびひろ（972人）、第30回親と子のわくわく音楽会（612人）、小中学生のための札幌コンサート（2,978人）、帯広市民文化ホールロビーコンサート（70人）、帯広美術館特別展 幕末維新を生きた旅の巨人松浦武四郎（9,948人）、第3回帯広少年少女合唱祭（430人）、春風亭一之輔のドッサリまわるぜ 2018（429人）、アーバンサクソフォンカルテットプレミアムコンサート（235人）、プラスフェスティバル in OBIHIRO（425人）、見て、触れて、学べる体験型ショー恐竜動物園（1,385人）、あみゆげ。ファミリーコンサート（141人）、第4回帯広市民バレエ公演「コッペリア」（1,240人）、わらび座ミュージカル「松浦武四郎～カイ・大地との約束」（666人）、帯広市文化賞等（2個人）、市民文藝第58号（応募者数100人、1,083作品）、とかちジュニア文芸第9号（応募者数197人、240作品）、語り手育成講習会（2講座、2回、67人）

③ 健やかな体づくり

展開方策	主な取組み
健やかな体を育むスポーツ活動等の推進	帯広市体力・運動能力調査、スポーツ教室・講習会（205回）、スポーツ・レクリエーション事業（3事業）、総合型地域スポーツクラブ（4団体）、スポーツ少年団登録（75団体、1,794人）

食育の推進と学校給食の充実	学校食育推進会議及び食育推進委員部会の設置、食育レシピ集の作成・配布、食育講演会、栄養教諭等による給食指導・教科指導、「ふるさとの日」給食の実施（9月～11月の各月・3コース各1日）、親子で給食づくり（2回、62人）、食育指導専門員の派遣、農業技術センター展示ほ場見学（11校、668人）、酪農教育ファームでの自然体験学習（1校、28人）、帯広の森サラダ館学童農園（22団体、2,093人）、各種イベントにおける食育推進ブース出展（2回）、食育推進サポーター登録（団体・個人35件）、保育所での食育講座（9所、9回、170人）、保育所給食試食会（1,052人）、こどもクッキング（54回）
---------------	--

④ 人間を尊重し自然と共生する人づくり

展開方策	主な取組み
人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進	児童虐待防止推進月間パネル展、児童虐待防止啓発カードの作成、男女共同参画セミナー（1回、153人）、 ^女 と ^男 の一行詩作品募集・展示（589作品、259人）、男女共同参画情報誌の発行（年2回、各3,000部）、男女共同参画講座（4回、142人）、社会参画支援講座（2回、51人）、デートDV予防講座（4回、1,032人）、UD講座の開催（9回、391人）、手話に関する出前講座（11回）
グローバル化に対応した教育・学習活動の推進	小中学校に外国人講師派遣、長期休業中に学校の希望に応じて外国人講師派遣、小学校での「Obihiro サマーイングリッシュ・ウインターイングリッシュ」の開催、中学校での「Obihiro サマーイングリッシュプラス・ウインターイングリッシュプラス」の開催、南商での外国人英語指導助手配置（1人）、マディソン市派遣（生徒5人、引率教員1人）、高校生相互派遣事業（米国スワード市4人派遣・受入なし、中国朝陽市3人派遣・4人受入）、市民交流団体の国際交流活動への支援（2団体）
環境に関する教育・学習活動の推進	帯広らしい環境教育プログラム集の発行・配布、帯広らしい環境教育ホームページによる情報発信、児童会館科学展示室（入場者31,353人）、プラネタリウム上映（入場者10,009人）、児童会館での科学教室・工作教室等（8,003人）、出前環境教室（47件、1,754人）、環境にやさしい活動実践校認定更新（全41校、小26校・中14校・高1校）、教員を対象とした環境教育講座（1回、15人）、ごみ懇談会・エコエコ紙芝居・環境学習支援事業（合計44回、1,414人）、1日飼育係【13歳以上】（6回、17人）、親子で挑戦！動物園のミステリークイズ（2回、43人）、夜の裏側探検隊（2回、59人）、冬の裏側探検隊（1回、35人）、スポットガイド（随時）、ふれあい教室（70組、2,280人）、よるの動物園（4日、5,646人）、秋の裏側探検隊（1日、45人）、春の裏側探検隊（1日、42人）

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

① ふるさとの理解の促進

展開方策	主な取組み
子どものふるさと教育の推進	郷土体験学習（小学4年生対象）、自然体験学習（中学生対象）、ふるさと学習農園（2校）、アイヌ民族文化理解促進指導用教材の作成（副読本おびひろ）
地域に関する学習活動の推進	地域の学習情報・指導者情報のホームページでの提供、市民大学講座（61講座、受講者4,515人）、コミュニティ講座（25,364人）、高齢者学級（171人）、生涯学習情報誌の発行、アイヌ民族文化情報センター「リウカ」の活動、埋蔵文化財センターの活動、常設展示室「八千代A遺跡出土品コーナー」改修、第8回中城ふみ子賞の実施（110編）

② きずなづくり・まちづくり

展開方策	主な取組み
まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進	中学生からのメッセージ（14人）、平成31年成人の集い（1,235人）、地域子ども会リーダー宿泊研修会（177人）、ジュニアリーダー養成講座「あすかの会」（22人）、ジュニアリーダー「あるふあの会」（41人）、南商におけるボランティア活動（32クラブ）、市民大学講座（61講座、受講者4,515人）、コミュニティ講座（25,364人）、生涯学習情報誌の発行、生涯学習コーディネーターの支援、語り手育成講習会（2講座、2回、67人）、百年記念館の常設展示解説（19回）、レコードコンサート（9回）
にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興	第37回おびひろ市民芸術祭（入場者数27,123人）、明治北海道十勝オーバル利用大会（開催数88大会）、日韓競技大会（開催種目1種目）、スケートキングダム開催（4回）、プロスポーツ大会（3回）、スポーツ合宿誘致（154団体）、フードバレーとかちマラソン大会（7回目）、日本クラブユースサッカー選手権大会（8年連続開催）、2018/19 ISU ワールドカップスピードスケート競技会帯広大会、2019 IIHF 女子U18アイスホッケー世界選手権

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

① 学校・家庭・地域の連携

展開方策	主な取組み
開かれた学校づくり	公開研究会、地域公開参観日の実施、学校図書館開放事業、教職員住宅の整備（取壊：広野小）、学校開放学校数（29校）、学校評議員設置（全小中学校 191 人、南商 5 人）、新任学校評議員研修会、学校評議員だより（年 3 回）、南商学校開放講座（16 人）
家庭教育への支援	地域子育て支援センター（6 か所、延べ相談件数 4,298 件、延べ利用組数 28,154 組）、子育てメール通信登録（1,261 件）、子育て応援ボランティア（15 団体、167 人）、子育て講座（7 か所、289 回）、子育て応援事業所（305 事業所）、家庭教育学級（9 学級、106 人）、ファミリーサポートセンター事業（641 人、1,096 件）、子育てガイドブック（2,600 冊）、発達支援ガイドブック「あくせす」（350 冊）、生活支援ファイル「つなぐっと」の配付（776 冊）、絵本との出会い事業（36 回）、あそびの広場（172 回、875 組、1,942 人）、サンデーファミリー事業（12 回、200 組、568 人）、こんにちは赤ちゃん訪問（486 回）、小中学生の保育体験・保育ボランティアの交流（24 所（園））、高校生と幼児の交流（18 所（園））、町内会・老人クラブとの交流（141 回）、おはなし会（116 回、3,666 人）、わくわく♪ドキドキ！！家読（うちどく）にチャレンジ！（1 回、70 人）、夏休み親子陶芸教室（3 回、116 人）、冬休み親子陶芸教室（2 回、83 人）、親子七宝教室（2 回、40 人）、親子で挑戦！動物園のミステリークイズ（2 回、43 人）
家庭や地域による教育支援の推進	「こども応援！みらいカフェ」の実施（3 会場）、学校支援地域本部の設置（全小中学校 40 校）、子どもの見守り活動実施（全小中学校 40 校）、子ども 110 番の家設置登録（1,081 所）、放課後子ども広場の実施（26 校、延べ 687 回、延べ 22,017 人）

② 教育を支える人材の育成

展開方策	主な取組み
教員の間力・指導力の向上	学校指導訪問での指導・助言、教員リーダー育成講座（3 回）、中央教育課題思潮等調査研究事業（4 人）、パソコン研修講座（延べ 635 人）、研究紀要「帯広の子どもたちの学力」発行、全道教科担当指導主事研究協議会、教育課程検討委員会、帯広市教育研究会事業補助、公開研究会

地域人材の発掘・育成・活用	地域の指導者の登録者数（200人）、第14回北の構図展（794人）、帯広市文化賞等（2個人）、スポーツ指導者の講習会・研修会（開催数3回）、少年団指導者認定講習会（2回）、スポーツ大会派遣補助（197件、773人）、体育連盟加入団体（45団体、48,280人）、ほっとドリームプロジェクト（競技者の育成事業4回、底辺の拡大事業5回）
---------------	--

③ 教育環境の充実

展開方策	主な取組み
学校教育の環境整備	温水ボイラー改修（小学校2校）、トイレ大規模改造（小学校1校）、机・椅子更新（小学校4校 1,650セット）、「帯広市子供安全ネットワーク」の運用と改善
社会教育の環境整備	とちプラザ館内各機器修繕・更新及び備品修理、百年記念館トイレ洋式化・屋根等修繕、動物園路舗装修繕、フリーディングローンによるシロフクロウの導入、新総合体育館整備運営事業、帯広の森野球場内野グラウンド土入れ替え及び散水栓改修
保育・体験活動の環境整備	ときわの森保育所改築費補助、へき地保育所の認可化に向けた改修工事（2所）

④ 教育機会の確保

展開方策	主な取組み
就学・進学への支援	スクールバスの更新（清川地区）、就学援助認定（小 1,526人、中 929人）、私立高等学校生徒授業料補助（182人）、奨学金貸付（大学生 48人、専門学校生 7人、高校生 3人）、幼稚園就園奨励費の支給（1,001人）、帯広市高等学校間口対策協議会の開催（3回）
健やかな発達の支援	就学に関する教育相談の実施（409件）、特別支援教育助手の配置（9人）、特別支援教育補助員の配置（60人）、生活介助員の配置（28人）、特別支援学級の開設（知的学級 1校）、障害者高等教育補助（126人）、特別支援保育（26所）

⑤ よりよい教育のためのしくみづくり

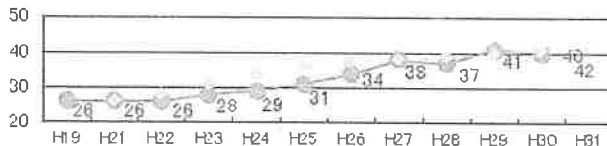
展開方策	主な取組み
魅力ある学校づくりの推進	おびひろっ子学び支援事業、おびひろっ子絆支援事業（全小中学校 40校）、小規模特認校就学（児童 2人）
学校教育のしくみの工夫改善	大空中学校適正規模の確保等地域検討委員会の設置・開催（全 5回） 「帯広市大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画」の策定、「帯広市小中一貫教育推進基本方針」の策定、帯広市幼保小中連携推進委員会の設置、帯広市エリア・ファミリー構想の推進（市内全 14 エリアで協議の場を設置）、幼保小中連携エリア実践交流会（参加 45人）

社会教育施設の利用の促進	社会教育施設連携アクションプログラムの充実、ホームページでのスポーツ活動情報提供（24 項目）
地域の実情に応じた教育行政の推進	教育懇談会（4 か所、81 人）、教育懇談会の実施概要及び教育委員会会議の会議録のホームページでの公開

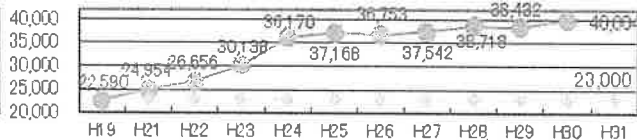
○ 成果指標の推移

※実線は実績値、点線は目標値。

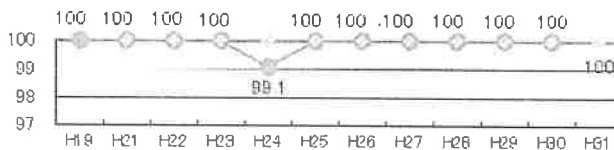
① 個別目標 1-1：知識・技能の習得



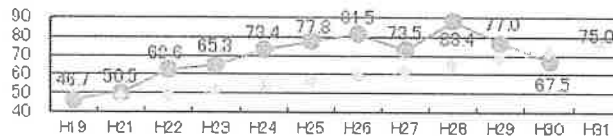
参考図1. 標準学力検査の目標基準到達観点数 (観点)



参考図2. 帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数 (人)

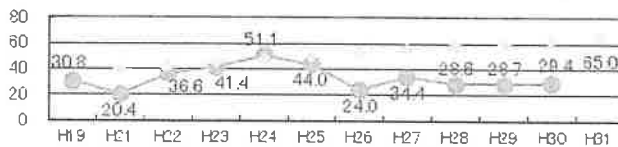


参考図3. 帯広南商業高等学校の就職率 (%)

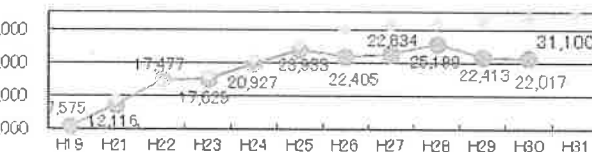


参考図4. 帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率 (%)

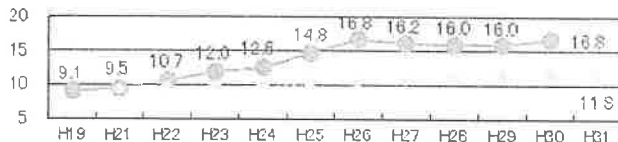
② 個別目標 1-2：豊かな心の育成



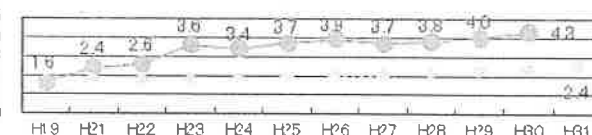
参考図5. 不登校生徒の復帰率 (%)



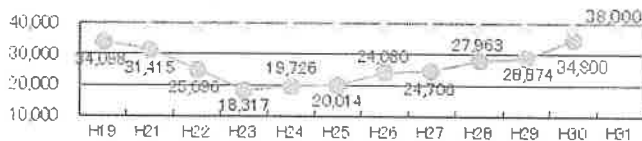
参考図6. 子どもの居場所づくり参加児童数 (人)



参考図7. 小学校図書館の児童1人当たり貸出冊数 (冊)



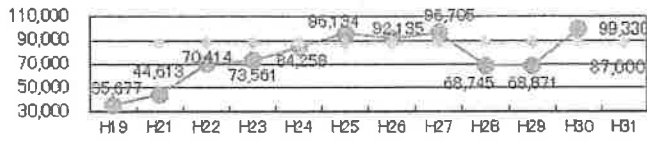
参考図8. 中学校図書館の生徒1人当たり貸出冊数 (冊)



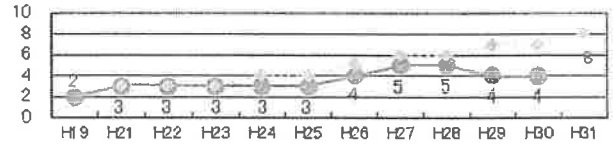
参考図9. 鑑賞事業の入場者数 (人)

※実線は実績値、点線は目標値。

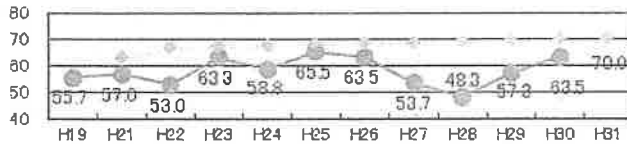
③ 個別目標1-3：健やかな体づくり



参考図10. スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数(人)

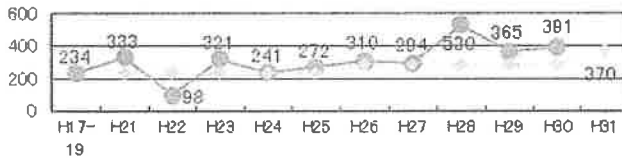


参考図11. 総合型地域スポーツクラブ設置数(カ所)

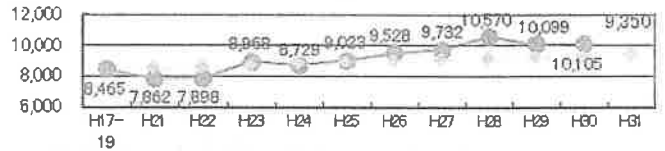


参考図12. 学校給食における地場産野菜の導入率(%)

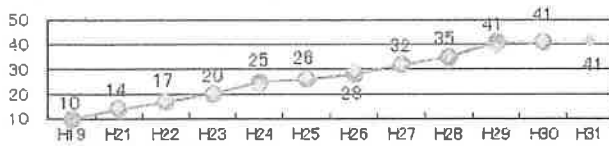
④ 個別目標1-4：人間を尊重し自然と共生する人づくり



参考図13. UDに関する講座等への参加者数(人)

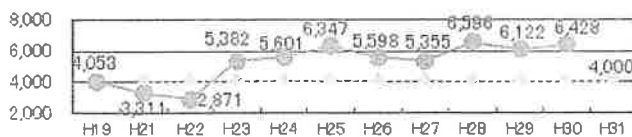


参考図14. 国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数(人)



参考図15. 環境にやさしい活動実践校数(校)

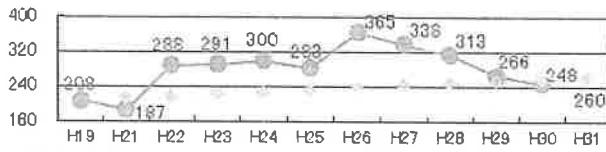
⑤ 個別目標2-1：ふるさとの理解の促進



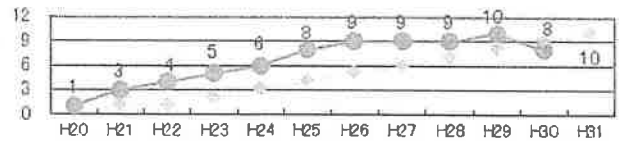
参考図16. 地域について学ぶ講座等への参加者数(人)

※実線は実績値。点線は目標値。

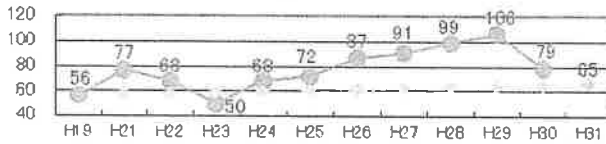
⑥ 個別目標2-2：きずなづくり・まちづくり



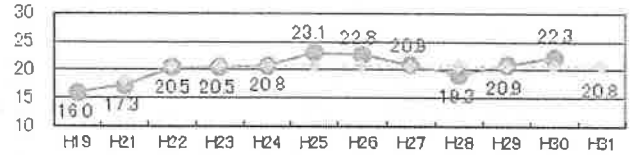
参考図17. 青少年リーダー養成事業参加者数(人)



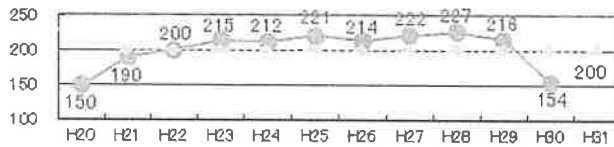
参考図18. 学習成果の活用事例数(件)



参考図19. 発表・活動の場への参加団体数(団体)

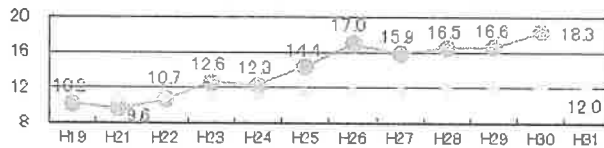


参考図20. 各種スポーツ大会の観客数(万人)

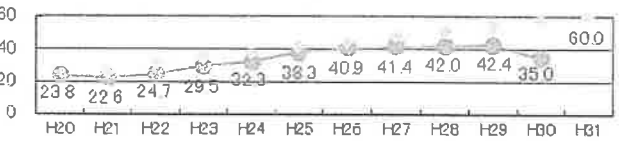


参考図21. スポーツ合宿団体数(団体)

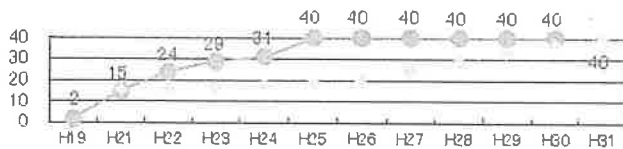
⑦ 基本方向1：学校・家庭・地域の連携



参考図22. 子ども1人当たりの子育て支援センター等の利用回数(回)



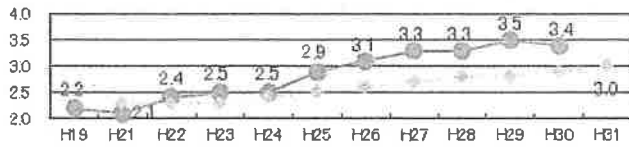
参考図23. 子育てメール通信の利用率(%)



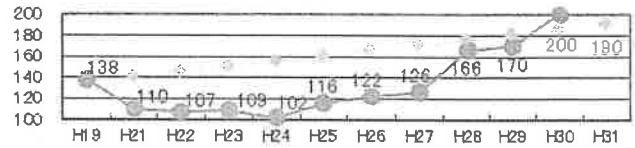
参考図24. 学校支援ボランティアを活用した学校数(校)

※実線は実績値、点線は目標値。

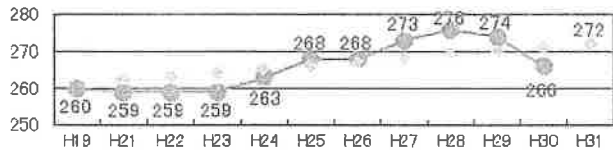
⑧ 基本方向2：教育を支える人材の育成



参考図25. 教職員1人当たりの研修受講回数(回)

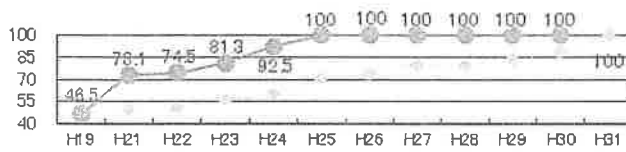


参考図26. 地域の指導者の登録者数(人)

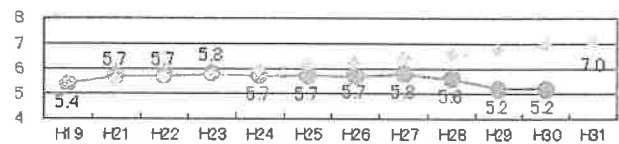


参考図27. ホームページで芸術・文化活動を
紹介する文化団体数(団体)

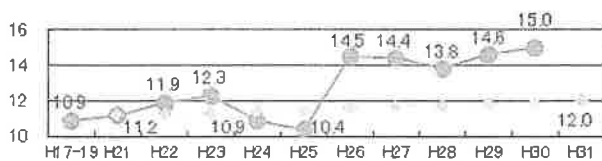
⑨ 基本方向3：教育環境の充実



参考図28. 小・中学校校舎の耐震化率(%)

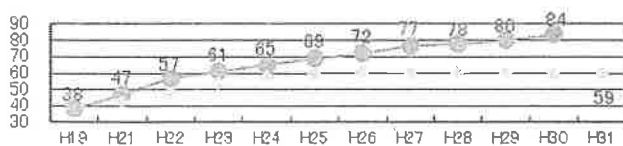


参考図29. 市民1人当たりの図書等の貸出点数
(点)



参考図30. 児童会館の入館者数(万人)

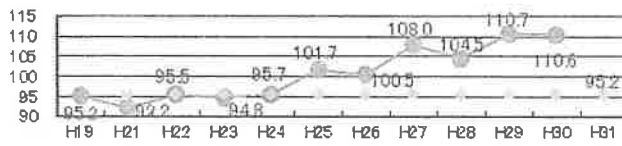
⑩ 基本方向4：教育機会の確保



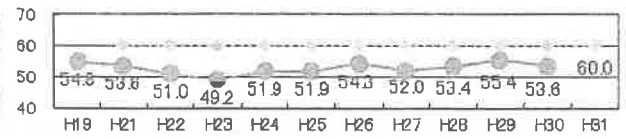
参考図31. 特別支援学級の設置数(学級)

※実線は実績値。点線は目標値。

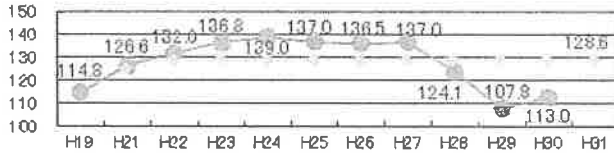
⑪ 基本方向5：よりよい教育のためのしくみづくり



参考図32. 社会教育施設の総利用者数 (万人)



参考図33. 文化施設の利用者数 (万人)



参考図34. スポーツ施設の利用者数 (万人)

○ 課題及び今後の方向性に対する平成30年度の取組み

(1) 次代を担う人づくり

① 知識・技能の習得

展開方策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成30年度の取組み
子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進	○学習指導や授業改善、教職員への学力向上研修講座の開催のほか、学校・家庭・地域が一体となり、学習習慣や生活習慣の改善をすすめる	○学力向上プロジェクトチームを活用した研修講座の開催 ○エリア・ファミリーを中心としたノーテレビデーなどの実施
個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進	○講座内容の見直し、新規講座の実施、市民ニーズに適合した学習機会の提供や新規受講生の確保に取り組む	○社会情勢や市民ニーズを踏まえた多様な学びの機会の提供
職業に関する教育・学習活動の推進	○小中学校において、キャリア教育への指導・助言を行う ○帯広南商業高等学校において、キャリア教育や職業教育の充実を図り、社会性と教養を身に付けた人材育成に努める	○教育課程編成、学校訪問時におけるキャリア教育についての指導・助言 ○インターンシップ事業や地域事業者によるビジネス基礎講座の実施。ICTを活用した専門的・実践的な職業教育の実施
高度情報化に対応した教育・学習活動の推進	○SNSの正しい使い方やインターネットの安全利用に関する啓発活動に取り組む	○関係機関との連携。SNSの正しい使い方やインターネットの安全利用に関する啓発活動の実施

② 豊かな心の育成

展開方策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成30年度の取組み
子どもの社会性の育成	○不登校児童生徒の復帰に向けて、個々や保護者への相談体制の充実のほか、教育相談員の活用をはかる ○中学校の「特別の教科道徳」の教育課程編成の手引きを作成する ○子どもの居場所づくりでは、魅力ある講座の実施やスムーズな事業運営に取り組む	○こころの教室相談員やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの学校派遣。各種教員研修の実施 ○指導訪問などで指導・助言を行い、小中学校の授業の改善 ○幅広い市民への事業周知、ボランティアスタッフを確保するため、わくわくこどもまつり・プラザまつりにPRブースを設置

豊かな情操の育成と生きがいづくり	<p>○学校図書館において、蔵書整備、運営に係る担い手の確保や専門性の向上を図り、利用促進に取り組む</p> <p>○市民協働による鑑賞機会の提供に向けた仕組みづくりを検討し、芸術・文化に関する魅力や開催情報などの情報発信に努める</p>	<p>○学校図書ボランティア等の読み聞かせ等の継続。講習会開催の検討。「リユース会」による図書館の資料の提供。</p> <p>「ぶっくーる便」の活用、図書館職員による「学校図書館クリニック」や「語り手育成講習会」の実施</p> <p>○広報おびひろや市ホームページ、SNS 等による情報発信</p>
------------------	---	---

③ 健やかな体づくり

展開方策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 30 年度の実施
健やかな体を育むスポーツ活動等の推進	<p>○より多くの市民がスポーツに親しみ、楽しむことのできる機会づくりに努める</p> <p>○学校等を通じて各家庭へスポーツ少年団の情報提供を継続し、登録数の増加をはかる</p>	<p>○フードバレーとかちマラソン大会など、市民参加型のスポーツ大会や教室の開催</p> <p>○小学校を通じ、少年団活動の周知</p>
食育の推進と学校給食の充実	<p>○栄養教諭と食育指導専門員の連携を強化し、児童生徒への食に関する指導の一層の充実をはかる</p> <p>○地場産野菜の導入に向けて、天候に影響されやすい収穫期の確保と端境期の使用量・品目拡大に取り組む</p>	<p>○栄養教諭と食育指導専門員の連携をはかり、啓発資料を活用した児童生徒への食に関する指導の実施</p> <p>○地場産野菜の導入率(63.5%)前年比 6.2%上昇。地場産冷凍野菜や地元生産者からの直接購入の増加</p>

④ 人間を尊重し自然と共生する人づくり

展開方策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 30 年度の実施
人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進	<p>○ユニバーサルデザインに関する講座の開催や周知に努める</p> <p>○セミナーや講座の開催など、男女平等意識の定着・浸透を図る</p> <p>○差別に関する相談など、障害への理解・促進に取り組む</p>	<p>○帯広畜産大学や帯広南商業高等学校でのユニバーサルデザイン講座開催のほか、大正ふれあいまつりにおける周知啓発など、庁内外と連携した取り組みの実施</p> <p>○男女平等の意識の定着・浸透をはかるため、セミナーや講座の開催</p> <p>○手話に関する出前講座の実施。援助や配慮を知らせるためのヘルプマークの配布を通じ、障害のある人への理解促進</p>

グローバル化に対応した教育・学習活動の推進	○新学習指導要領や小学校外国語活動の教科化に対応した指導のあり方を検討し、外国語指導講師の人員増も含めた体制を検討する	○外国人講師を6人に増員し、小学校への派遣時間数の増。中学校での夏季・冬期休業日のサマーイングリッシュ・プラスの開催
環境に関する教育・学習活動の推進	○環境教育プログラム集などにより情報を発信し、帯広らしい環境教育を推進する	○環境教育プログラム集の発行・配布。教員を対象とした環境教育講座の実施。ホームページによる情報発信、意見交換会の実施

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

① ふるさとの理解の促進

展開方策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成30年度の取組み
子どものふるさと教育の推進	○小中学校で行っている体験活動等のプログラムの見直しや学校独自の取組みなどを検討する ○百年記念館では、教材の更新や新たなプログラムづくりに取り組む	○中学校自然体験学習では、数校で従来のプログラムに合わせて、自然観察や野外炊飯の学校独自メニューの実施 ○小学校などでの体験を重視した「ミニ百年記念館」の開催
地域に関する学習活動の推進	○市民大学講座、百年記念館博物館講座や図書館郷土資料展示などにより、地域理解を深める機会を提供する ○アイヌ民族の歴史や文化の学習機会の充実を図るため、リウカの利用や出前講座の周知を積極的に行うほか、アイヌの伝統文化の保存・伝承団体への支援、イオル再生事業に取り組む	○市民大学講座で、地域の特性や地域づくりに役立つ講座の開催。百年記念館で、博物館講座や企画展などの実施。図書館で、郷土の歌人中城ふみ子の名を冠した全国公募短歌賞の開催。 ○リウカでの小学生向け体験教室や鹿笛づくりなどの出前講座の開催。アイヌ伝統文化保存・伝承団体への支援、イオル再生事業の実施

② きずなづくり・まちづくり

展開方策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成30年度の実施
まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年育成団体スタッフの人材育成・発掘のため、活動内容を積極的に周知し、学校、PTA、地域などの協力を得ながら、参加しやすい体制づくりを検討する ○社会教育施設において、知識・技術の向上・継承を図り、活動の場を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年育成団体の活動等について広く市民に周知をはかり、協力者が活動しやすい体制づくりの検討 ○図書館の講座受講者がボランティアのおはなし団体を結成し、活動。博物館活動を担う人材育成のための、博物館ボランティア養成講座の開催
にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ○芸術文化団体の活動の継続・活性化のため、文化団体等が意見・情報交換する機会の提供を検討する ○帯広市スポーツ合宿・大会誘致推進実行委員会などと連携し、新たなチームの確保に向け、北海道はもとより首都圏への誘致活動の強化をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい文化振興指針策定に向けて、文化団体との情報交換の実施 ○日本クラブユースサッカー選手権大会の開催継続やプロ・社会人による野球交流戦の開催など、全国レベルのスポーツ観戦の機会の提供

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

① 学校・家庭・地域の連携

展開方策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成30年度の実施
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○最新情報を学校評議員に提供するほか、研修機会や活用の充実に努める ○コミュニティ・スクール導入に向けた体制・環境整備をすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評議員研修会での現在の国の動向等について情報提供。グループ毎に評議員の交流や情報交換の機会を設定 ○制度周知を目的に教職員・地域住民向け研修会の実施
家庭教育への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○すこやかネットを通じて、これまでメールでは提供できなかった動画の視聴や子育て施設マップなど、より充実した情報を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ○市の子育て情報やイベントのお知らせの配信。離乳食の与え方、サークルや各種教室、地域子育て支援センター、わらべうたの紹介等の動画配信。施設マップ等の情報提供

家庭や地域による教育支援の推進	○地域の人材確保や活動内容の充実に努めるほか、団体と人をつなぐ、コーディネーターのあり方について検討する。	○コーディネーターやボランティアのスキルアップに関する研修会の開催や周知。事業交流会の実施。学校支援アドバイザーを設置し、コーディネーター間の情報交流や活動のアドバイス等の支援
-----------------	---	--

② 教育を支える人材の育成

展開方策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成30年度の取組み
教員の間力・指導力の向上	○教員研修への積極的な参加の呼びかけのほか、教員リーダー育成事業において、教員の資質・能力や人間性と社会性の向上をはかる ○部活動休養日を設定するなど、教職員の働き方改革を推進する	○「教員リーダー育成」の趣旨に沿った、「ONE-UP 研修会」の実施 ○「帯広市立学校における教職員の働き方改革推進プラン」の作成。教職員の長時間勤務解消等に向けた学校閉庁日の設定
地域の人材の発掘・育成・活用	○積極的でわかりやすい周知活動や指導者の育成につながる講座等の開催により、地域の人材発掘と活用をはかる	○制度の認知度を高めるための周知方法の見直し

③ 教育環境の充実

展開方策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成30年度の取組み
学校教育の環境整備	○施設の機能等確保のため、「(仮称)帯広市学校施設長寿命化計画」を策定する ○継続的な修繕により、教育環境の施設の延命化と改善に努める	○「帯広市学校施設長寿命化計画」の策定 ○「帯広市学校施設長寿命化計画」の中で、計画的修繕のグループ分けを行い、今後の修繕予定の決定
社会教育の環境整備	○図書館の利用者の増加に向け、子育て応援バッグの貸出や高校生の紹介本の設置など、利用者サービスの充実に取り組む ○社会教育施設の機能を維持できるよう、施設状況を適切に把握し、施設・設備の修繕と更新を計画的に行う	○子育て応援バッグの貸出や高校生の紹介本の設置 ○とちかちプラザの空調設備修繕。市民文化ホールの大ホールの改修。図書館の屋内消火栓ホースの取替。動物園の園路舗装修繕及びゾウ舎暖房機修繕。帯広の森野球場の内野グラウンドの土入れ替え及び散水機の修繕
保育・体験活動の環境整備	○老朽化した保育所や児童保育センターの整備、低年齢児の受入枠の確保に向けた取り組みをすすめる	○へき地保育所の認可化に向けた改修工事、ときわの森保育所の改築費補助

④ 教育機会の確保

展開方策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成30年度の実施計画
就学・進学への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールバスの計画的な更新をすすめる ○経済的負担を軽減するため、国や道の動向を踏まえながら、就学援助等の制度を適切に運営する ○高校の間口を維持確保するため、情報収集や要望活動を継続する 	<ul style="list-style-type: none"> ○清川地区のスクールバス1台を更新 ○就学予定者（新小1年生）に対する新入学学用品費の入学前支給の開始 ○「帯広市高等学校間口対策協議会」を中心とした情報収集。要望書の提出
健やかな発達の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な支援や教育を行うため、特別支援教育補助員や助手、生活介助員を適切に配置し、合理的配慮の考え方に基づいた体制・環境の整備をすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> ○知的学級（1校）の開設 ○特別支援教育補助員の増員（1名）

⑤ よりよい教育のためのしくみづくり

展開方策	前年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成30年度の実施計画
魅力ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○地域人材の発掘と確保をはかり、地域と連携した教育活動の充実に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校支援アドバイザーを設置し、コーディネーター間の情報交流や活動のアドバイス等の支援
学校教育のしくみの工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ○帯広市エリア・ファミリー構想の考え方を教職員、地域や保護者に広く浸透させる ○小中一貫教育の推進に関わる基本的な考え方を整理する。 ○小中学校の適正規模の確保等について、選定校の今後のあり方について検討をすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保小中連携エリア実践交流会のほか、エリアにおける実践事例の発表や各エリアの状況の交流、意見交換会等を行い、情報共有や学校種間の連携を強化 ○「帯広市小中一貫教育推進基本方針」の策定 ○「帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画」の策定。
社会教育施設の利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○文化・スポーツ施設の利用促進のため、イベント等の情報発信を強化し、幅広く芸術・文化情報を発信していく 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害等によるスポーツ大会中止を防止するため、代替の開催場所を用意するための利用調整 ○施設ごとの月間予定表の掲載。インターネットによる施設予約システムや広報おびひろを通じたイベント情報の発信
地域の実情に応じた教育行政の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い市民や教育関係団体が参加できるよう、教育懇談会の会場や開催方法の工夫・改善を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育懇談会について、会場の変更、参加しやすい懇談テーマや内容の設定など、開催方法の工夫・改善